



文部科学省

令和4年度版

文部科学省総合職内定者の声



内定者一同ご挨拶

皆さん、こんにちは。『令和4年度版 文部科学省総合職内定者の声』をご覧いただきまして、ありがとうございます。この冊子は、文部科学省に興味を持ってくくださった方に、文部科学省やその内定者のことをより深く知っていただくために、令和4年度の総合職内定者を中心に作成されたものです。

文部科学省の所掌する領域は、「教育」「科学技術・学術」「スポーツ」「文化」と広範です。そして、時代の進展に伴い、それぞれの課題も日進月歩で複雑化・多様化しております。その中で、私たち内定者は、それぞれの思いや理想・夢を抱いて文部科学省の門を叩きました。内定者が何を考え、どんな志を持って文部科学省への入省を決めたのか、この冊子から感じていただければと思います。

文部科学省は常に未来の日本を見つめる「未来省」です。そんな文部科学省に興味をお持ちの皆様へ、この「内定者の声」が就職活動や進路選択の一助となれば幸いです。皆様のご活躍を心より応援しております。

令和4年度 文部科学省総合職内定者一同



CONTENTS



01
内定者統計
P.01~03



02
総合職試験
情報
P.04~13



03
官庁訪問
体験記
P.14~24



04
就職活動
体験記
P.25~31



05
文部科学省に
決めた理由
P.32~36



06
内定者フロ
フィール
P.37~46



07
インタビュー
P.47~61

0 1

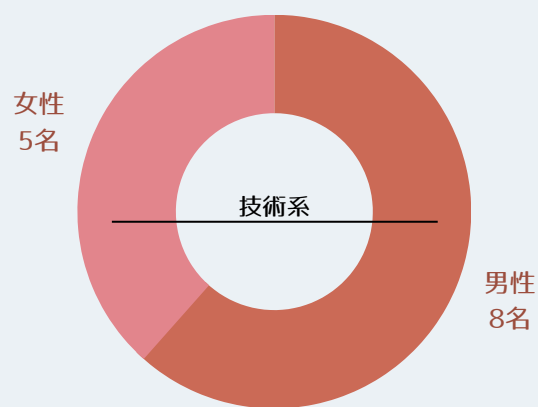
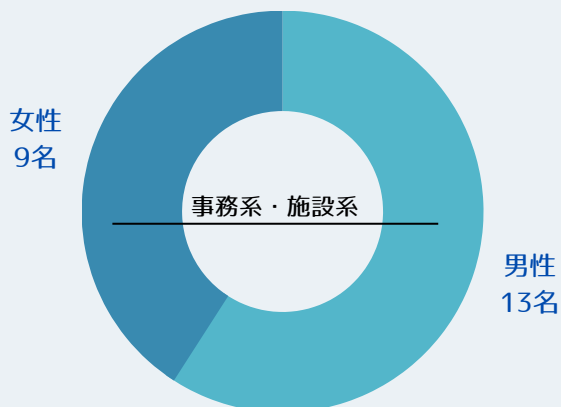
内定者統計



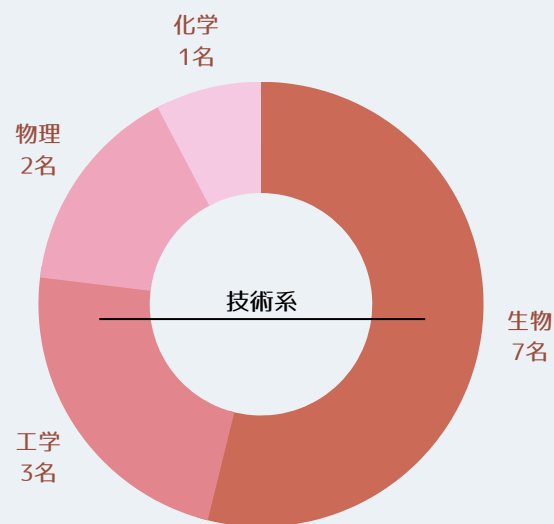
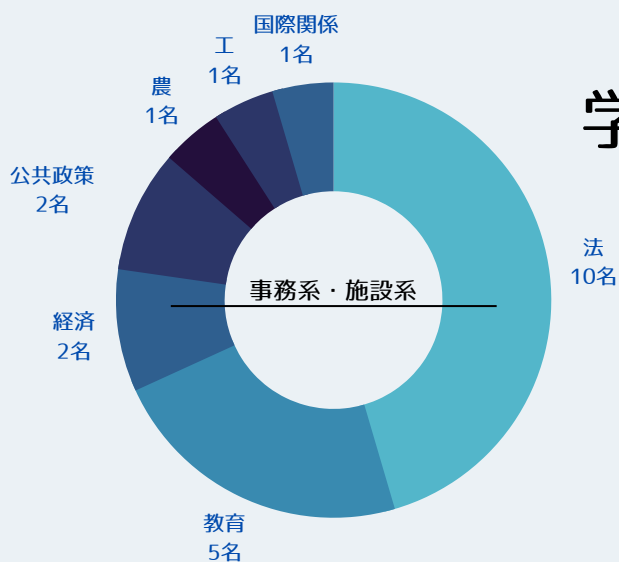
内定者合計35名

(事務系・施設系：22名 + 技術系：13名)

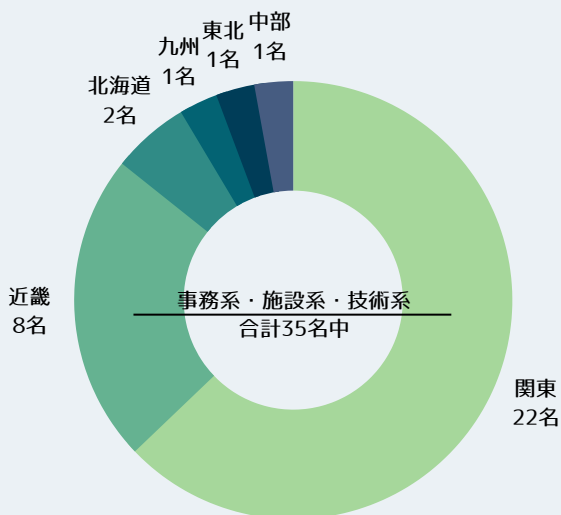
男女比



学部専攻



出身大学所在地



最終学歴

事務系・施設系

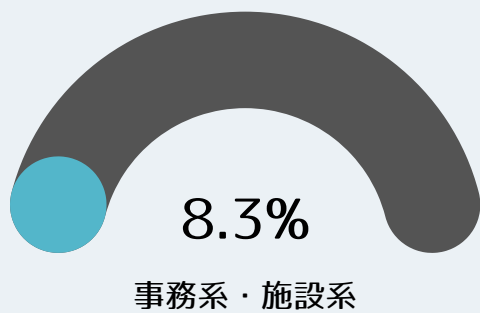
学士：16
修士：6
博士：0

技術系

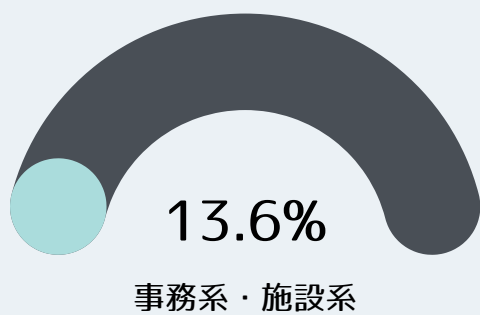
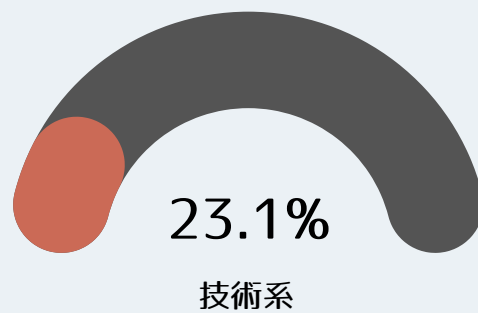
学士：1
修士：7
博士：5

内定者合計35名

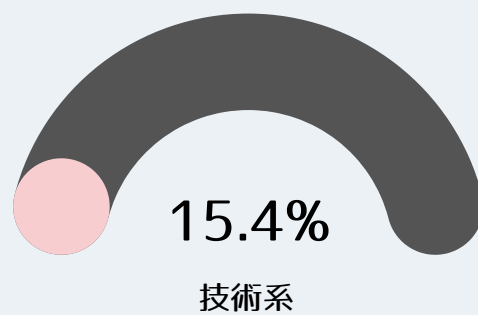
(事務系・施設系：22名＋技術系：13名)



社会人経験



留学経験



取得資格

教員免許 9

学芸員資格 2

毒物劇物取扱責任者（化学科卒業＝資格取得） 2

行政書士 1、社会教育士（予定） 1

教員専修免許 1、自然再生士補 1、認定心理士 1、

メンタルケア心理士 1、甲種危険物取扱者 2、

HSK6級 1、FP技能士3級 1

01

02

03

04

05

06

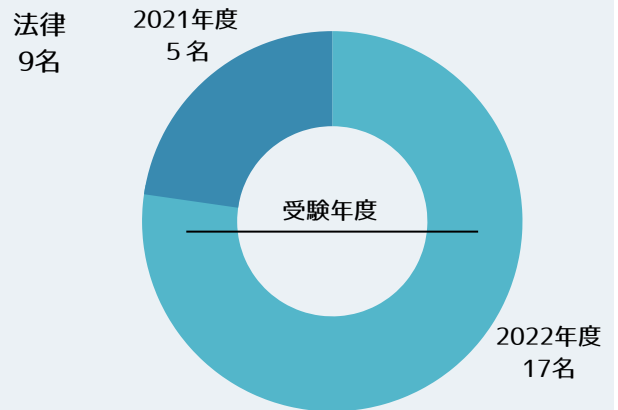
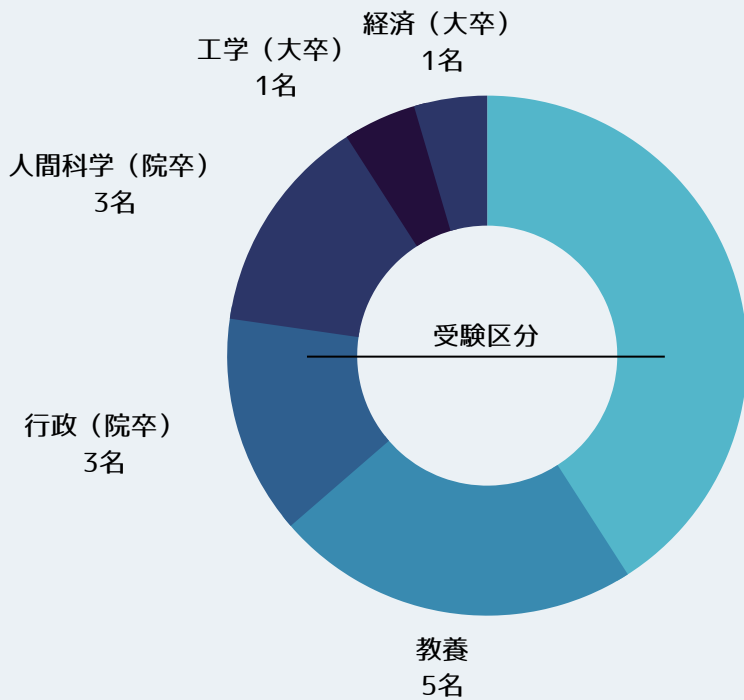
07

0 2

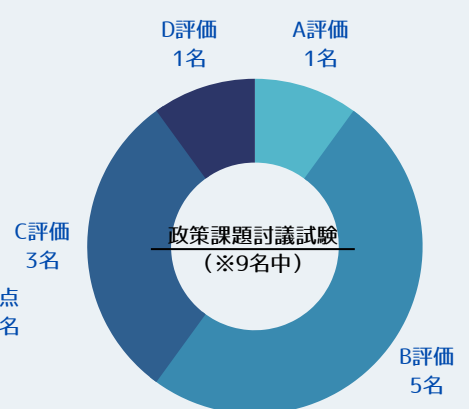
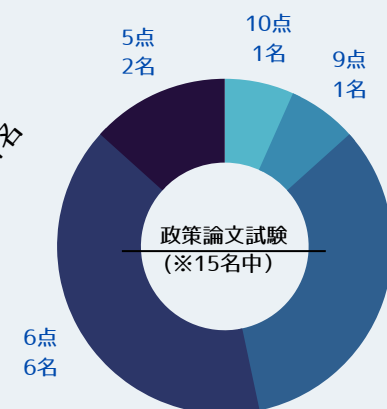
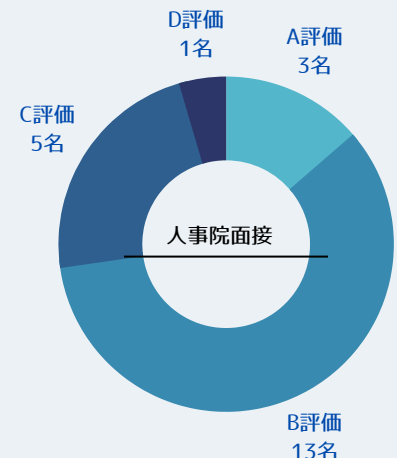
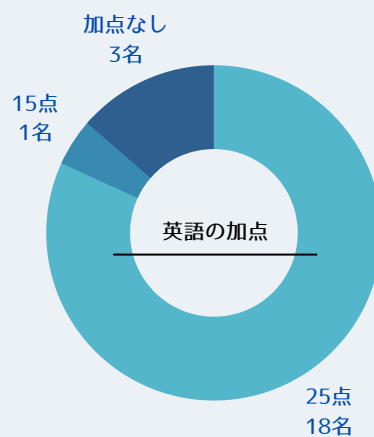
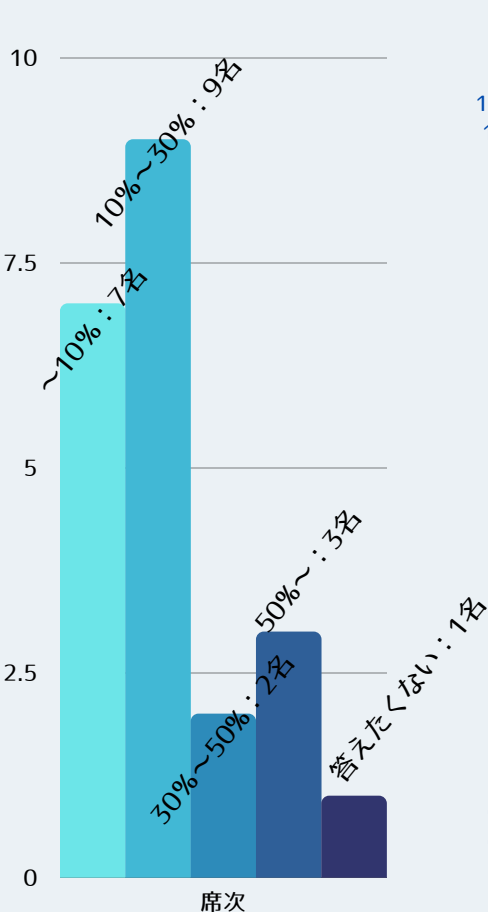
総合職試験情報



事務系・施設系 試験概要

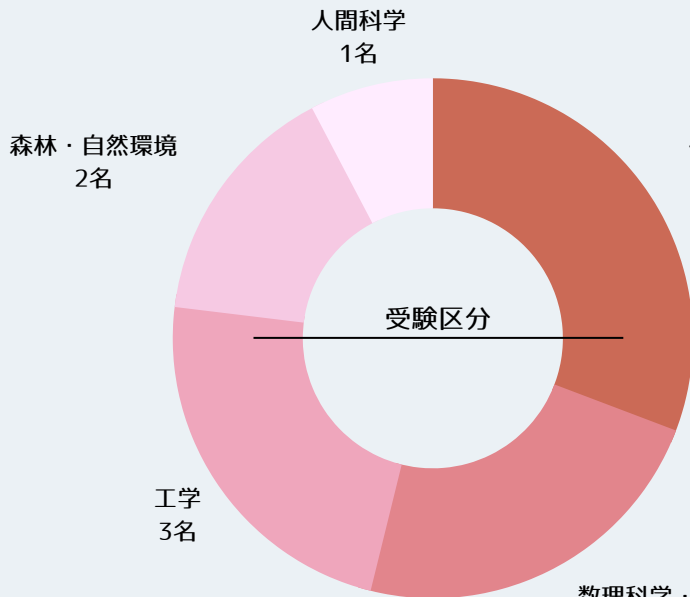


事務系・施設系 試験結果

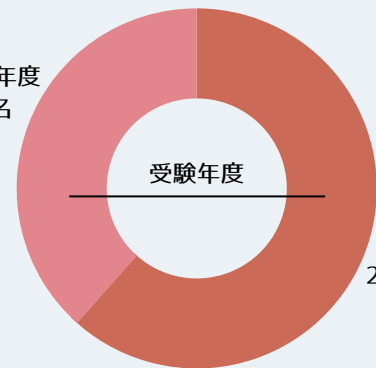




技術系 試験概要

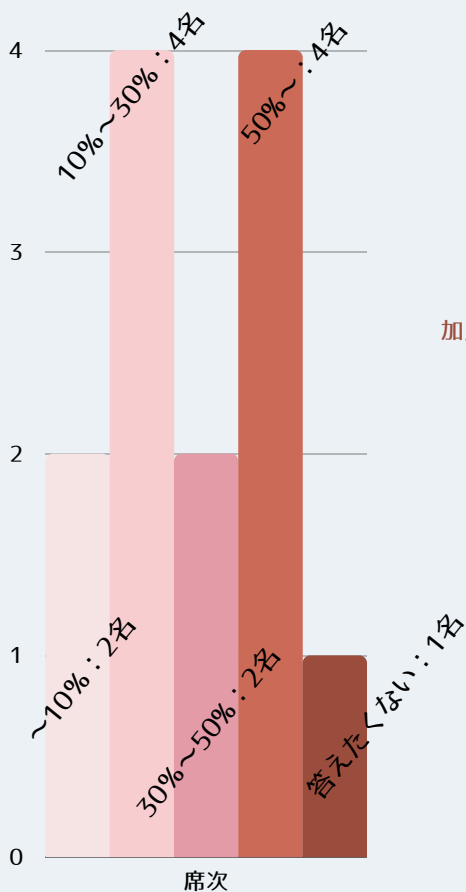


2021年度
5名

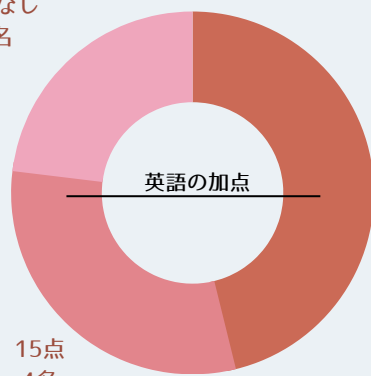


2022年度
8名

技術系 試験結果



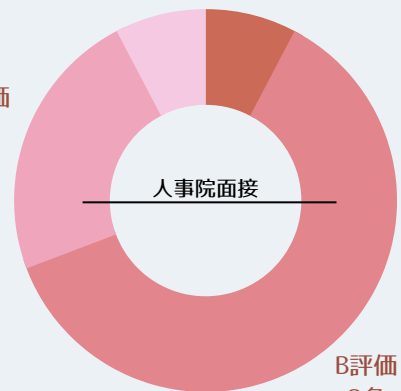
加点なし
3名



D評価
1名

A評価
1名

C評価
3名



0 1

0 2

0 3

0 4

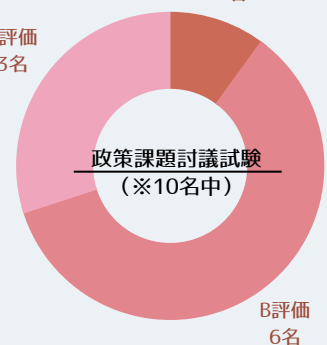
0 5

0 6

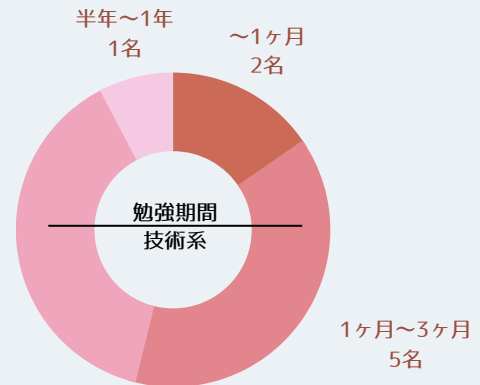
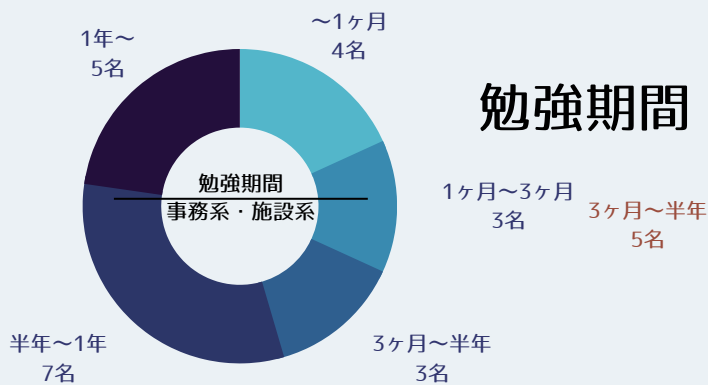
0 7

C評価
3名

A評価
1名



B評価
6名



独学 7人
予備校 12人
学内講座 3人

勉強方法

独学 13人

【受験区分の選び方】

- ・大学で学んだ分野、専攻と一致しているものを選んだ。
- ・早く合格すべく、秋に行われる教養区分を選択した。
- ・専攻分野（教育）と一致する区分がなく、専攻を問わないかつ早期に受けられる教養区分を、学内講座で教えてもらえること、地方上級など他の公務員試験の併願をしやすいことから選択した。
- ・大学院の専攻および現在の職務内容と一致しているものを選んだ。
- ・過去問を見て自分が解きやすそうな区分を選んだ。
- ・法律区分が、最も予備校講座や市販の教材も充実していたから。

【受験科目の選び方】

- ・民法、行政法、憲法は必須科目。そのほかは国際法、労働法、刑法を中心に少し経済学、財政学を勉強した。理由としては、国際法は学部の専攻で、労働法や刑法は、日常生活に結びつけやすく、点数もとやすい。会社法は民法との混同も起こりやすいし、細かい内容が多いので選択しなかった。経済学は社会科学と重なるところが多いので少しだけ勉強した。財政学は点数がとりやすく、費用対効果が高いため学習した。（法律区分）
- ・最低限よりも多い数の科目を選択して準備することで、点数が安定するようにした。
- ・苦手なものを捨てた結果、残ったものを勉強した。

【使用した参考書】

- 専門試験
（区分共通）
 - ・過去問（過去問500やスー過去など）
 - ・予備校や学内講座のテキストや問題集
 - ・学部の講義ノート
 - ・市販の問題集（法律区分では司法試験、行政書士試験用など）
 - （区分ごと）
 - ・判例百選
 - ・寺本康之の民法
 - ・NEW LIBERAL ARTS SELECTIONシリーズ
 - ・新・心理学の基礎知識
 - ・森林白書

○基礎能力試験

- ・畑中敦子の数的推理ザ・ベスト フラス
- ・時事対策本（速攻の時事など）

○官庁訪問 ※具体的な書籍名はp.17へ

- ・教育分野の教科書や新書
- ・歴史小説(進路選択の指標として)
- ・面接対策に関する本
(公務員用のものから就活用まで)



政策課題討議試験対策

【事前準備】

- ・レジュメは決まった型があるのでネットで要チェック。判定基準は公表されていないが、自分の意見は真っすぐロジカルに資料を引用しながらハッキリと明確に。
- ・レジュメは事前にどんな構成にするかの型を決めて臨んだ。
- ・筆記試験対策と同様に、政策課題討議においても時事対策は有効でした。全体的な最近の動向や政策の方向性を少しでも知っていれば、自分の主張や討議にも役立てることができます。
- ・一人では対策しづらく、自分の問題点も見えづらい試験だと思うので、複数人で実践練習ができる環境があれば積極的に参加・活用するのが良いと思います。
- ・模擬討議をひたすらやった。大学内のコミュニティ、高校時代の同期のつて、就活支援団体のイベント、予備校など、使える機会はフル活用した。
- ・政策課題討議の体験談が書かれた書籍を読んだり、受験経験のある先輩に話を聞いたりして、イメージを膨らませました。

【当日の様子】

- ・研究活動や大学の授業などでディスカッションの経験があれば特に心配することはないと感じた。政策討論で一緒にいる受験生は仲間なので、全員で協力することが大事。緊張して発言できていない受験生がいたら、「〇〇さんはどうですか？」というように聞いてみるのが良いと思う。
- ・当日は全員比較的発言の多い人が集まってしまったので、その中で自分が差をつけるために、同意だけでなく、価値のある発言を心がけました。
- ・政策課題討議のレジュメ作成20分が思った以上に短く感じました。資料をじっくり読み込んで自分の立場を検討していると時間が足りなくなるため、書きやすい方で自分の立場を決めてから根拠づけのための資料の読み込みを行うと良いと思います！
- ・個人の意見に過ぎませんが、斬新な角度から突飛で大胆な発想を出すことよりも、昨今の動向を踏まえ、これまでの政策や他者の意見と適度に協調しながら常識の範囲内で提案の方向性を見出すことを意識しました。政策課題討議試験では特に、他者の意見を否定したり論破したりするのではなく賛否両方の意見をうまく取り入れながら他者と上手に協働できていた人の評価が高かったように感じます。

企画提案試験対策

01

【事前準備】

- ・出題テーマは事前に公表されるため、まずはその資料をしっかりと読み込んだ。
- ・想定される問題例をいくつか挙げた上で、それぞれに対応する提案施策を練り、本番ですぐ出せるクオリティの文章に起こすところまで事前にやった。
- ・企画提案試験は、テーマがわかっているため、特に時間をかけて対策できる試験であると感じる。
- ・与えられたテーマから当日の課題を複数予想し、実際に小論文を書き上げる練習をすると良いかと思います。様々な切り口でテーマを捉えることで、当日どのような課題が出てもある程度対応できるようになります。また、先輩などをお願いして繰り返し添削してもらうことも非常に重要です。

02

【小論文の書き方】

- ・既存施策を拡張するように政策を作ることが重要です。どの角度から出題されても事前に準備してきた施策を書けるよう、網羅的に事前準備をすることが大事だと思います。ちなみに私は予想を大外しして痛い目に逢いましたが、しっかり受かったので、想定外のものが出ても焦らずに！
- ・面接官もそれほど長い時間小論文を読めるわけではないので、なるべく構成のわかりやすい小論文を意識していました。

03

04

05

06

【フレゼンの練習方法】

- ・書いた小論文を複数の内定者の方に見ていただき、添削を受け、想定問答を作った。

07

基礎能力試験対策

【過去問演習】～繰り返し解いて自分なりのパターンを確立！～

- ・スー過去で問題演習を繰り返し行った。
- ・過去問を用いて試験中の時間配分や解く順番を考えた。

例えば、後半にある社会や法律系の問題は素早く解いて、前半の現代文や英文に時間をかけるなど。

【試験戦略】～メリハリをつけて、分析しつつ進める！～

- ・全てのジャンルを完璧にしようとするとは時間的にも能力的にも厳しいので、メリハリをつける対策を意識し、全体で目標点に達することを目指しました。
- ・知能分野（文章理解・判断推理・数的推理）は問題例・過去問と解き方・解説を勉強し、形式に慣れました。頭を固くしすぎず楽しんで解くよう心がけました。
- ・知識分野では、大学受験で使った科目・馴染みのある科目を中心に演習し、大学受験で使っていない科目・知識がほとんどない科目は捨て科目にしました。かといって、捨て科目を作りすぎるのは良くないので、自分の得意・不得意を踏まえてよく見極めることをおすすめします。
- ・（春試験の場合）基礎能力試験よりも専門試験の方が配点比率は高いので、専門試験の対策が疎かにならないように注意。

【知人との協力】

- ・友人と帰り道に問題を出し合っていた。
- ・基礎能力試験対策の勉強会を週に一度ほど行った。

【その他アドバイス】

- ・過去問演習について、（一年度分だけでもいいので）早いうちに一度通し練習をした方が良い
- ・自分に合う教材を見つけること。
- ・アウトプット（問題集を解くこと）を中心に対策しました！範囲が広いので、頻出テーマをピンポイントで抑える方が効率よく学習できると思います！
- ・解けなくてもとりあえずマークシートを塗る意識が大事。
- ・数的処理について、本番で解けそうなものになかなか解けない問題に沼ってしまい、時間ギリギリまで問題を解くことになった。事前に1問あたりの時間を決めて解くと思うが、決めた制限時間をオーバーしたら潔く次の問題に進むよう、日ごろから意識して演習した方が良い。

01

専門択一・記述試験対策

02

【勉強方法】～反復と復習がキーワード！～

- ・専門択一については、予備校の講座を受ける→過去問を繰り返し解く（予備校の過去問集を4周くらいしました）というやり方で対策しました。
- ・専門記述については、一次試験終了後から過去問10年分にひたすら取り組みました。解く→予備校の解説講義を聞く→添削する（時には講師に添削してもらう＋友達と意見交換する）の繰り返しで力をつけました。
- ・学内講座のテキストや問題集に情報を集約し、試験の3ヶ月ほど前からそれらを繰り返し読むことで、知識を身に付けていきました。
- ・苦手な問題についてはノートにまとめるなどして、重点的に復習できるようにした。

03

04

05

06

【知人との協力】

- ・説明会や懇親会で会う歳の近い先輩に、連絡先（LINE）を聞いて対策方法を教えてもらった。
- ・内定者が勉強方法を教えてくれるコミュニティもあるので、探してみたい。

07

筆記試験当日のエピソード

【前日準備】

- ・前日は、苦手な問題の復習に力を入れて、最終確認を行った。
- ・前日はとにかく早く寝て、コンディションを万全にした方が良い。
- ・試験中はスマホを見れないので時計の購入や電池確認を忘れずに！
- ・食べるものや水分の取り方は事前にシミュレーションしておいて、かつ臨機応変に対応できるように準備していました。

【当日の様子】

- ・筆記試験の朝、緊張したくなくて、カワウソの可愛い絵本をゆっくり眺めていた。（現実逃避）
- ・駅から試験会場まで、受験者である程度まとまった列ができるくらい人が多かったです。
- ・試験当日は、信頼できる参考書を数冊持参し休憩時間に最後の見直しができる心が落ち着きます。試験本番まで自分の生活リズムを崩さず（試験に合わせて変に何かを変えようとせず）、できるだけ平常心で試験に臨むのが良いと思います！
- ・筆記試験は大学受験の雰囲気になかった印象があります。大教室で前後左右にも受験者が座っているので、周りの受験者の気になる行動（貧乏ゆすり、咳払い、途中退出など）に目がいてしまうことも多々あると思いますが、周りをシャットアウトして集中することに尽きると思います！

【失敗談…】

- ・筆記試験の前日は、30分も眠れませんでした。明け方の絶望感がとてつもなかったです。
- ・集中力が途中で切れました。講義一コマ分より長く集中力が求められるので、過去問を解く際に最初から最後まで時間を計って解き切るようにすることを強くお勧めします。
- ・基礎能力試験をしてから専門択一試験をすると誤解しており、試験会場に入ってからずっと英単語帳を読んでいた。試験のアナウンスがされて専門択一が最初だと聞いたとき震えが止まらなくなった。
- ・試験当日、開場時間少し前に到着したのですが、入場の列が既にできており、席に着いたのが試験開始直前になってしまったのは想定外でした。雨が降るなか、30分以上外で並んでいたと思います。

【成功談！】

- ・試験時間が非常に長いため、試験中にも糖分を補給できるようお茶の他に甘い飲み物を持っていきました。思った以上に、試験中の集中力維持に繋がったように思います。
- ・当日の朝は緊張しましたが、大一番の時にいつも聞いている私の勝負曲を聴いて、緊張をうまくコントロールしていました！

【アドバイス】

- ・試験場所が遠かったり、試験時間が長かったり、とにかく一日長丁場なので、お昼の他にもお菓子とか持って行ったほうが良いです。また、持っていく教材が多すぎても焦るので、信頼しているもの一つとかに絞っていました。
- ・試験会場のトイレが混んでいて焦った。トイレは試験会場に着くまでに済ましておくべき。
- ・混雑や電車遅延、迷子等のリスクに備えるためにも、時間に余裕を持って、早めに到着するようにするのが良いと思います。
- ・専門試験については、一肢ずつ丁寧に検討を重ねても時間に余裕があるため、焦らず正確に知識をアウトプットすることが肝要であると思います。基礎能力試験について、私は文章理解に自信があったため、始めに解くことで頭を働かせていきました。休憩時間には、時事などの一般知識を見直す方が、即効性があり良いと思われます。
- ・一次試験の際、周りが回答を終えている中で問題を解ききることすらできず、茫然自失になったが、ふたを開けてみれば受かっていたし、周りの人間は殆ど落ちていたので、周囲は気にしてはいけなない。特に国総の試験は他の公務員の志望者が場慣らしで受けに来ているケースも多いので、気にしてはならない。

01

02

03

04

05

06

07

政策論文・総合論文試験対策

【対策の仕方】

- ・予備校で行われるゼミで対策した。
- ・過去問から出そうな分野を推測し、その分野の政策動向を白書やニュースで軽くインプットしておいた。
- ・政策の要点を網羅できる「骨太の方針」は、対策の抜け漏れがないかチェックするうえでとても有用だと思います。
- ・あまり時間を割くことができない場合には、基本的な書き方（構成等）だけでも理解すること。
- ・論文は塾の他に友人に何回も見てもらっていました。友人に見てもらうときは内容というよりも読みやすい文かということを重視してもらいました。おかげでかなり読みやすい文章がかけるようになりました。

【時間配分】

- ・解答時間を①問題を読んで構成を練る時間と、②実際に答案を書く時間の2つに分けていました。構成が決まっていれば何分で答案を書けるか（②の時間）を練習の際に把握して、そこから逆算して①の時間を確保していました。
- ・1月から併願先の対策もふまえて論文の過去問を20題ほど解き（書き）、自身の改善点を洗い出すと共に、本番での立ち回りを確立していきました。最終的な時間配分は、答案構成に30分、残りの時間で清書という形に収まりました。

【その他アドバイス】

- ・問題文をよく読んで、聞かれていることに真っ直ぐに答えているかが、1番大事。

人事院面接対策

【面接カード】

- ・面接カードの完成度を高めるために、複数の方に繰り返し添削していただきました。
- ・面接カードはスペースが限られているので、最低限の情報をわかりやすく伝えることに努めました。面接カードの内容をもとに深掘り質問がなされるので、そこまで事前にイメージできていると良いと思います。
- ・面接カードは、民間のESと同様、具体的かつ簡潔に書くことを意識していました。
- ・書き直しやすいということで、1日前までPCで編集していたのですが、本番は手書きです。前日に大修正することになったのでもっと早く清書して、手書きで書ける量を認識すべきでした。
- ・何をしたのか、自分がどういう立場だったのか、その時の状況はどうだったのか、というような"WHAT"の説明はあまり多くなりすぎないように気をつけて、その結果どうなったのか、何を得たのか、自分にどう役立ったのか、という部分の説明を盛り込むように気をつけました。
- ・"WHAT"の部分詳しく書こうと思えばいくらでも書けてしまいましたが、単なるエピソードトークを求めているのではなく、そこから人柄や価値観を見出すことを意図されていると思うので、後半の結果の部分を語れるように深めておく方が良いと思います。
- ・面接カードの内容を吟味したり丁寧に清書したりする時間を考えると、早めに取り掛かる方が良いと思います。直前で仕上げようとするとどうしてもクオリティが下がってしまいます。

【面接練習】

- ・鏡やPC・スマホのインカメラを前にして、自分の表情（マスクをしているものの）などを確認しながら、本番を想定した受け答えの練習を繰り返しました。
- ・面接の練習は大学のキャリアセンターの人にしてもらった。
- ・自分の思っていることを素直に伝える。面接官との会話だと思って臨む。
- ・面接カードに書いた内容の他に、聞かれそうな質問リストとその回答を自分で作り、ある程度覚えるまで練習しました。回答を覚えるにあたっては、移動時間などの隙間時間を活用しました。

01

02

03

04

05

06

07

人事院面接対策当日のエピソード

【当日の流れ・受け答え】

- ・3人の面接官が、面接カードに沿って順番に質問してくる。想定内の質問ばかりで、変化球はあまりなかった。
- ・圧迫感はなく和やかな雰囲気。
- ・人事院面接は15分程度と聞いていたが、前の人も自分も10分程度で終わってしまい不安だったが、両方とも合格していたので、面接自体にそんなに失敗した感覚がなければ、時間は短くても問題ない。（反対に20分以上面接が続いた内定者もいます。）
- ・面接カードに書いてあることを深掘りするような具体的な質問が多かったです。
- ・事前にいくつも追加質問を想定していたので、概ねスムーズに答えられましたが、それでも想定外の質問が飛んできました。想定外の質問が来た時には一度落ち着いて、すぐに思いつかない時は（質問を繰り返したり、問いに関係する状況の補足説明をしたりして）少し時間を稼いだ上で、質問内容からずれないように正面から丁寧に答えるように心がけました。
- ・主観的なエピソードだけでなく、サークルにおける自分の役割や自分の特徴などを客観視して説明するよう求められました。自己分析などの際に自分について他人から話を聞くなどして、客観的な視点を持つておくこと、それを自分で説明できるようにしておくことも必要だと思いました。
- ・面接カードに書いてあるエピソードの他にエピソードがあるか問われました。面接カードに書いた例&エピソードの他にも、同じような結論に繋がりそうな具体的なエピソードを1・2個用意しておくこと安心かもしれません。

【成功談】

- ・想定問答を用意しておいたおかげで焦らずにできた。
- ・順番が1番最後で、集合から面接まで4時間待ちました㊤やっと思える！面接官と楽しく話すぞ！という心意気でいたらうまくいったので、緊張しないのも大事です。
- ・時折意図がよくわからない質問を受けたが、それっぽく説得的な感じで返す対応力を発揮して乗り切った。
- ・本当に人事院面接は面接官によります…コミュ強の友達がD評価で震えました。しかも、質問もかなり面接官によって違います。だからこそ様々な人に練習に付き合ってもらって良かったです。
- ・論文内容が面接官の所掌分野と関連していたようで、手厳しいツッコミを入れられた。的を射たご指摘だったので、その点については本論文の課題ですとしか回答できず、かなり冷や汗をかいた。ただしそれ以上詰められることもなく、評価も悪くはなかったので、内容よりもきちんと会話のキャッチボールができるの方が重要だと思う。
- ・答える内容を一言一句決めて暗記するのではなく、話す内容を軽く決めた上で、後はその場の流れで簡潔に答えるようにしていたのは、良かったと思う。民間就活を通じた面接練習や実践がとても役に立った場面だった。

【失敗談】

- ・面接カードの内容は十分フラッシュアップを重ねていたのですが回答に窮することはなかった。しかし面接の所作（面接室への入り方、いつ挨拶するかなど）について事前に確認していなかったせいで、本番少し焦った△→面接カードの推敲や面接での受け答えに加え、あらかじめ面接の所作について確認したほうが良いと思う。
- ・番号が後半だったので、集合してから実際に面接に呼ばれるまでに1時間半～2時間ほど待機室で待ちました。私は当日面接カードと想定回答集しか持参していなかったので延々とそれらを見直していましたが、待ち時間が長い場合に少し時間を潰せるような本や参考書等を持参しても良いかもしれません。
- ・面接室の前で自分の順番を待っていた時、面接室から笑い声が聞こえてきて前の受験生の面接が盛り上がっていることが分かりました。その後の自分の面接では盛り上がることもなく淡々と面接が進んでいったことで焦りを感じたり、予定には無かった謎の待機時間があったことで動揺したりしてしまい、上手く受け答えできない場面がありました。

01

02

03

04

05

06

07

学校生活・研究・仕事等との両立

【学校生活】

- ・4年前期の授業は少しすくなく受講していました。でも4年後期まで未取得の単位が残っていると、ちょっと気分が下がるので、取れる人は4年前期で単位を取り切ってください。
- ・全然両立できなかった。2月までバイトと授業で毎日飛ぶように過ぎていった。2月から本腰入れて頑張りました。
- ・大学の指導教官には、前もって報告しておくべき。研究室活動を休まなければならないこともあるため。

【研究】

- ・試験落ちたら就職できない！と思って、研究にあまり専念できなかったです。とてつもなく優しい教授の研究室に所属しているので、教授と相談しながら最低限の進捗は生み出すようにしていました。（今は研究に全力で！病院にいかない程度に頑張ってるね！と言われています。）なので、教授とか、周りの人の理解は大切だと思います。
- ・大学院生は就活と研究の両立が大変だと思う。私の所属する研究室は就活休みというのをくれなかったのので、研究しながら民間就活・公務員試験対策をしなければいけなかった。優先順位を決めて時間対効果の低いものは切り捨てて行かないと時間が足りない。
- ・日中は研究室なので深夜～朝方にかけて勉強をしていた。土日は時間が取れるので専門記述の勉強をしていた。

【仕事】

- ・教員をしており、出願を決めたのが卒業式で生徒を送り出した3月半ばだったため、最初の第1次試験まで残り時間が1ヶ月程度しかなかった。特に3月は年度切り替えに伴う時間割作成等の重い仕事が多く発生するため、平日は試験対策の時間がほとんど取れず、出勤前や退勤後、そして休日を使って、最低合格点を念頭に対策の配分を考えた。試験が平日の時は時間給を取り、午後から出勤という形を取っていたので、年休が確実に取得できるかどうかの予定の確認も重要である。
- ・社会人にとっては試験～官庁訪問を通しての最大の関門は「有給取得」だと思うので、試験日・官庁訪問日に有給などが取れるように、半年くらい前からいろいろゴマすりしておく。2次試験が直前まで日程がわからない仕組みで、且つ平日に当てられるのがなかなか罪深い。

01

総合職試験にまつわるアドバイス

02

- ・使える人脈や機会は全て活用して、満足のいく試験対策にしてください！！
- ・第二次試験の際には提出書類なども多いので余裕を持ってきちんと準備しておくことが大事です。
- ・完璧主義になりすぎないように！！試験だけでなく、大学との両立や官庁訪問対策もあります。最初に立てた計画に固執しすぎず進めて欲しいです。
- ・一次試験の直前に体調を崩してしまい、無事に試験を受けられるか不安な思いをしました。ぜひ体調管理には気を付けて下さい。
- ・官庁訪問で試験の席次は関係ないと言われるし、実際そうなのかもしれませんが。ただやはりいい成績をとったときは気持ちが高まりますし、余裕をもって（リラックスして）官庁訪問に臨める気がします。逆に席次があまり良くなかった場合でも、「コスパよく合格できた」ととらえて、官庁訪問に引きずる必要は全くないと思います。
- ・2023年度から春の総合職試験の合格は5年、秋の教養区分の合格は6年6ヶ月有効なので、博士課程の人は特に早めに受けておいたほうが後々楽になります。さらに、技術系は既合格者の官庁訪問があるので、準備不足で少し自信がなくても、早めに受験してみることをおすすめします！事務系も、大学二年生から教養区分試験を受けられるようになりました！ぜひ増えたチャンスを活かしてください～！

03

04

05

06

07

0 3

官庁訪問体験記



官庁訪問の概要

※施設系・技術系では、既合格者向けの官庁訪問が別途設けられています。

【官庁訪問の特徴】

- ・国家総合職試験の最終合格後、志望府省等に採用されるための重要なステップ。
→試験最終合格＝内定ではない。
- ・6月下旬から7月上旬の約2週間で行われる。複数省庁（基本上限3省庁）に訪問可能。
- ・職員と受験者の1対1の面接が基本。
- ・オンライン形式での面接を導入している省庁も。
→文部科学省は、第1クールは希望者に対しては必ずオンライン面接で対応（2022年度）。
※官庁訪問の最新情報については必ず人事院ホームページをご確認ください。

【クール制】

第1クール・第2クール

1日目	2日目	3日目
A省庁	B省庁	C省庁

- 第1クール・第2クール
- ・第1志望から第3志望までの省庁を1日ずつ訪問可能。
- ・必ずしも3日間全て回らないといけないものではなく、訪問する省庁は1つや2つでもOK。
- ・第1クール・第2クールでは訪問する順番を変えることはできず、また、同一クール内で複数回同一省庁に訪問することもできません。

第3クール

1日目	2日目
A省庁	B省庁

- 第3クール
- ・第2クールが終わると訪問する順番がリセットされ、第1・第2クールで2日目以降に回った省庁を第3クールで1日目に回することも可能です。
- ・通常1日目の第1志望省庁を訪問し、2日目は訪問しない人が多いです。すなわち、実質的に第3クールで志望を1つに決定することとなります。

第4クール・第5クール

1日目
A省庁

- 第4クール・第5クール
- ・第3クールで訪問した省庁に訪問するのが基本です。
- ・第4クール・第5クールは共に1日のみです。
- ・第5クールを通過すれば内々定を獲得し、官庁訪問は終了となります。

【面接の種類】 ※全て2022年度の文部科学省官庁訪問の情報

- 入口面接
 - ・5分～10分くらいの短い時間で職員さんと1日の流れを確認する面接。ある時もない時もある。
- 集団面接
 - ・学生複数人（5人程度）×面接官複数人（3人程度）で行う。
 - ・文部科学省の第1クール最初の面接は、事務系においては集団面接であることが多い。
- 原課面接
 - ・職員の方に業務についてのお話を伺うことが多い。逆質問がメインになる。
- 人事面接
 - ・人事担当の方に来訪者メモに沿って質問を受ける。民間の就職活動の面接に近いイメージ。
 - ・原課面接のように、業務についてのお話を伺うこともある。
- グループディスカッション
 - ・学生4人程度が1グループになる。テーマを与えられ、制限時間内で議論して発表する。（訪問日によってはグループディスカッションがないこともあった。）
- 出口面接
 - ・1日の面接の評価が告げられる面接。志望度や他省庁での選考状況を聞かれることもある。

官庁訪問のとある1日

【1日のスケジュール】

気になる官庁訪問について、**事務系・施設系**内定者が実際に経験した官庁訪問期間中のとある1日を再現してみました。面接の種類については前のページをご覧ください！

※下のスケジュールは一例であり、面接の時間や回数は人によって異なります。

	事務系	施設系
集合時間	9 : 15	9 : 15
	①集団面接(45分) ②原課面接(40分) ③面談(5分)	①集団面接(30分) ②原課面接(30分)
昼食休憩	60分	60分
	④原課面接(45分) ⑤原課面接(40分)	③原課面接(30分) ④原課面接(30分)
夕食休憩	60分	⑤人事面接(30分)
	⑥人事面接(30分) ⑦出口面接(15分)	⑥原課面接(30分) ⑦出口面接(15分)
退庁時間	20 : 00	19 : 00
	帰宅	帰宅

01

02

03

04

05

06

07

【コラム：施設系とは？】

施設系内定者から志望者の皆さんへコメントをもらいました！！

○施設系にした決め手は？

大学で学んだ建築の知識を活かして、文科省の業務に携わることができるのが決め手でした。子供たちが成長し、そして国民1人1人の生活を豊かにする“場所”を実際に整備することができるのが施設系の魅力だと思います。

○施設系を目指す受験生の皆さんへ一言お願いします！！

日本を取り巻く環境が変化の中で、文教施設も時代に合わせて変わっていく必要があります。予測不可能な時代を迎えている今こそ、みなさんの柔軟な発想で文教施設のあり方について一緒に考えましょう！

官庁訪問のとある1日

【1日のスケジュール】

気になる官庁訪問について、**技術系**内定者が実際に経験した官庁訪問期間中のとある1日を再現してみました。面接の種類については2つ前のページをご覧ください！

※下のスケジュールは一例であり、面接の時間や回数は人によって異なります。

	技術系7月期	技術系6月期 (既合格者)
集合時間	8:45	9:15
	①入口面接(10分) ②人事面接(20分) ③人事面接(20分)	①入口面接(5分) ②原課面接(20分) ③原課面接(20分) ④原課面接(20分) ⑤人事面接(20分)
昼食休憩	60分	60分
	④原課面接(60分) ⑤人事面接(40分) ⑥人事面接(30分) ⑦出口面接(10分)	⑥原課面接(20分) ⑦原課面接(20分) ⑧原課面接(20分) ⑨原課面接(20分) ⑩出口面接(5分)
退庁時間	18:30	18:00
	帰宅	帰宅

【コラム：就職活動中に読んでいた本】

○政策を勉強するには

- 『教育政策・行政の考え方』村上祐介・橋野晶寛著
- 『文部科学省一揺らぐ日本の教育と学術―』青木栄一著
- 『日本の教育はダメじゃない』小松光/ジェルミー・ラフリー著
- 『教育論の新常識』『教育格差』松岡亮二著
- 『個別最適な学びと協働的な学び』奈須正裕著
- 『教育動向2022』教育の未来を研究する会
- 『公務員試験 現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本』大賀英徳著
- 『教育新聞』教育新聞社

○上記以外にも...!

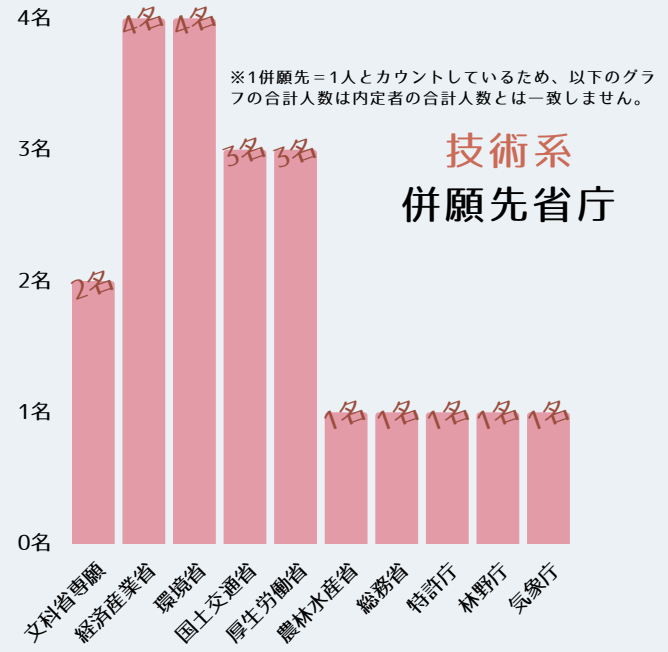
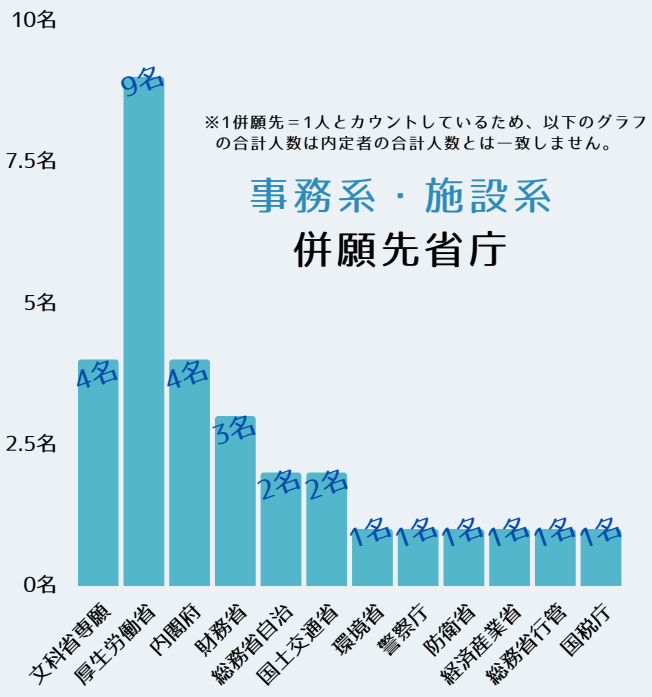
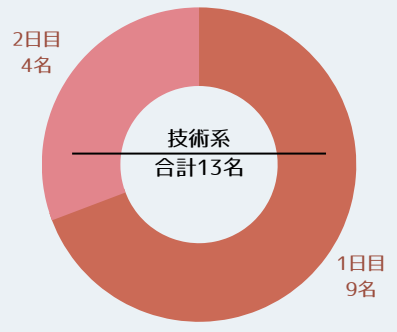
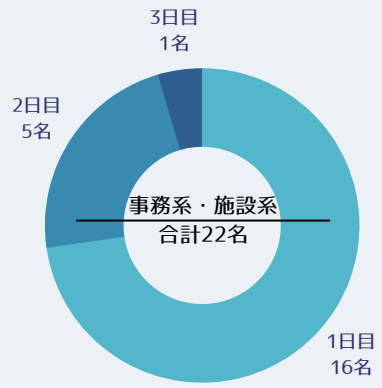
- 『星を継ぐもの』J・P・ホーガン著
- 『風雲児たち』みなもと太郎著

『項羽と劉邦』司馬遼太郎著

『われ笑う、ゆえにわれあり』土屋賢二著

官庁訪問統計

第1クールでの 文部科学省訪問日



【コラム：官庁訪問での訪問順序の決め方】

官庁訪問の第1クール・第2クールでは、合計で最大3つの省庁に訪問することができます。

一般的には、訪問順序の早い省庁の方が志望度が高いと判断される（＝志望者にとっては、選考に有利に働く可能性がある）ことが多く（※必ずしもそうでない省庁もあります）、官庁訪問直前の時期はどの順番でどこの省庁を訪問するか、とても悩みますよね…。

俗に「1日目省庁」と呼ばれる省庁もあり、その省庁を1日目に回るという戦略的な訪問順序の決め方もあると思いますが、事務系の一内定者である筆者のおすすめは、「**素直に志望度順に回る**」という決め方です。

ここで、「素直に志望度順に回る」ことのメリットを3つご紹介します。

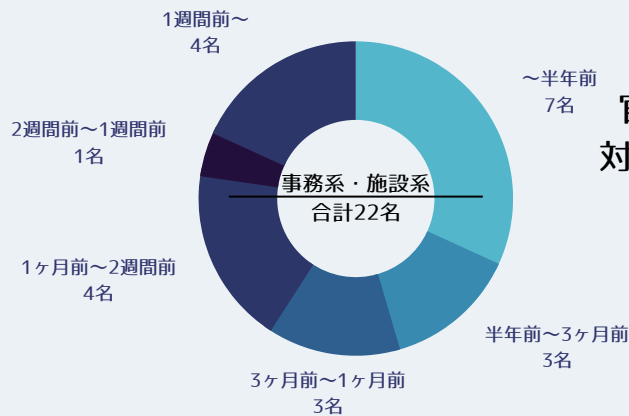
一つ目は、同期の雰囲気を知ることができるという点。第一志望の省庁に1日目に回れば、同じくその省庁を第一志望としている他の学生の雰囲気を知ることができます。未来の同期の雰囲気を知るには、素直に1日目に第一志望の省庁に回ってみましょう。2日目に回る省庁では、その場にいるのは他省が第一志望である学生が圧倒的多数であり、その省庁の内定を得る学生数は相対的に少数にとどまります。

二つ目は、面接の際に墓穴を掘りにくいという点。こちらはやや後ろ向き理由になりますが、官庁訪問では、併願省庁の有無や志望度は面接の際に必ず聞かれます。省庁の訪問順序は志望度を測る重要な指標になりますので、併願省庁の志望度と訪問順序が異なる場合はそれなりの説明が必要になります…。

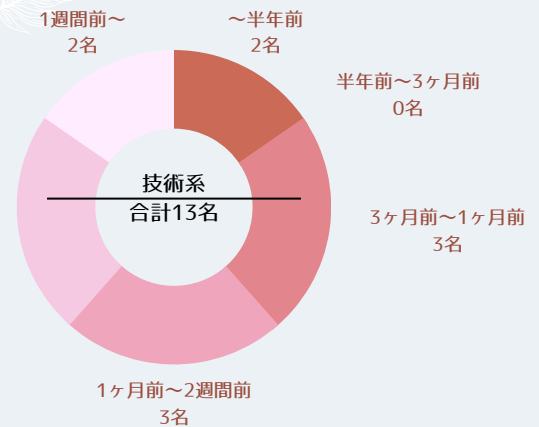
三つ目は、後悔しない選択につながりやすいという点。最終的により良い選択をするためには、自分にも面接官の方にも正直であることが大切でし、第一志望の省庁に2日目・3日目に回りもし感触が良くなければ、やはり1日目に回っておけば良かったと後悔することにも繋がりがかねません。

以上、「**素直に志望度順に回る**」ことのメリットを紹介しました。是非参考してみてください！

官庁訪問体験談



官庁訪問の 対策開始時期



【体験談①：来訪者メモの準備について】

- ・ **事務系：早めの準備が大事**：早く始めればよかった。/ 教養区分の最終合格が分かった後から準備を始めました。/ 他の省庁も併願する場合には、その分この時期に用意する資料が多くなるので、早めに取りかかるのがおすすめです。/ 大まかな内容自体は3月の民間就活が始まった段階から少しずつ考え始め、5月中旬の2次の筆記試験終了後から本格的に着手した。面接カード自体は、昨年のものがHPに上がっているの、それを参考に準備を進めた。
- ・ **事務系・施設系：他の志望者との差別化を**：原体験を交えて書き、他の志望者と差別化を図った。/ トレンドな内容を入れると、面接官のうけも良かった。
- ・ **技術系：早めの準備が大事**：2次の筆記試験後から準備を開始しました。相手に伝わりやすい文章になっているか研究室の先輩に確認してもらいました。他省庁のメモも含めるとそれなりに書く量があったので、もう少し早い時期から着手すれば良かったと思いました。/ 4月から来訪者メモの準備を始め、添削を繰り返しました。自己分析と来訪者メモを同時進行で行いました。来訪者メモでは番号をつけて、内容を整理して記入しました。
- ・ **技術系：アピール方法**：紙面に「これを聞いてください！（太字、下線）」とか書いてると面接時に聞いてくれる方もいるので、アピールするといいかも。

○志望動機

- ・ **事務系：志望動機の深め方**：志望動機については友人や先輩に添削してもらうだけではなく、自分の課題意識について議論してもらうことで内容も深めるようにしました。余計な文言を省き、限られた文字数の中でのなるべく自分の考えが伝わるようにしました。/ 半年くらい前から、職員訪問で文科省の職員の方と個別でお話しさせていただく機会が何度もあり、そこで様々な対話をさせていただく中で、志望動機や政策提言の内容も少しずつ固まっていきました。職員訪問や業務説明会で聞いたこと、話したこと、印象的だったことはその都度しっかりとメモに残し、志望動機を固め来訪者メモを書き上げる時にも参考にしました。
- ・ **事務系：何故文部科学省かを大切に**：他省庁ではなく、他企業ではなく、他職種ではなく、なぜここを志望するのか、を明確にすることが一番大切だと思います。また、他でもない自分だからできること、やりたいこと、が伝わってくるような、熱意ある内容が書けると望ましいと思います。/ はじめから文部科学省ありきで書くよりは、自分自身のバックグラウンド→解決したい課題や、やりたい仕事→文部科学省ならそれを実現できる、という流れで書くほうがいい。/ 志望動機については、自分の経験を元にして、なぜ文部科学省なのか、なぜ教育なのか、なぜその問題が重要で、自身が取り組みたいのか、ということを考えながら、簡潔に書けるようこころがけた。
- ・ **技術系：具体性・明確性を意識**：志望動機は、できるだけ具体的に記入してくださいとあったので、自分の思う問題点・理想・改善方法などを明確にすることを意識しました。自分の経験や文部科学省の政策・取り組み名を具体的に挙げて書きました。

○政策提言

- ・ **事務系：政策提言の内容の決め方・構成**：政策提言は志望動機で挙げた課題意識と繋がるものにしました。/ 政策提言の内容は、文部科学省でやりたいことを軸に、今日の日本の社会が抱えている問題は何かという視点で決めたとします。/ 具体的な構成としては、理想→理想の実現を妨げている課題→課題の解決策、という順番で考えていくのが王道だと思います。
- ・ **事務系：説得力のある政策提言を**：自分がやりたいことや政策提言などは、ふわっとしすぎないよう、具体性、クリティカルな視点、その裏付けとなるような説得力のある理由や原体験エピソードを入れると良いとアドバイスされました。実際に官庁訪問の対話の中でもこれらは求められていたと感じます。
- ・ **事務系：政策提言を考える過程が大切**：私見ですが、職員の方々は政策知識云々を問うているのではなく（もちろん基本事項の理解は必須と思われます）、その提言を通して我々の深層に迫ろうとしていたのではないかと思います。そのため、自身の原体験や心変わりなどをふまえた上で、なぜその内容でもって官庁訪問に臨むのかという点を問い続けることが肝要であると思われる。/ たとえ提案内容自体に新鮮味がなかったとしても、自身の原体験や心変わりなどをふまえた上で、それを何故問題と思い、どのような解決策を自分が考えたのかというように思考の過程がより重要だと思うので、その点をしっかり時間をとって考えるようにしました。
- ・ **技術系：説明会や職員訪問の有効活用**：説明会や職員訪問の中で考えを深め、自分の中にあった問題意識にエビデンスを肉付けしていく感じで政策提言を書いた。5月中に来訪者メモを書き上げ、文部科学省の職員さんに添削してもらった（2次試験が終わると官庁訪問が始まるまで、受験生と職員は個人的な接触禁止というルールになっている）
- ・ **技術系：「国」の立場を忘れずに**：政策提言は、日本社会が直面する課題または目指すべき将来像を1つ選べとありました。将来像よりも課題の方が説得力のある文章が書けるかなと思ったので、課題の方を選択して、志望動機を結びつけながら書きました。「国が行くこと」というのを忘れないように気をつけていました。
- ・ **技術系：白書やHPを参考に**：問題意識をもったことについて現状どのような政策を打ち出しているか白書やHP等から確認し、本当に必要としている人たちに届いていないというケースを洗い出しました。そのうえで白書やHP等に使用されているデータや身の回りに起きている例を組み合わせ作成しました。/ 毎年発行されている科学技術・イノベーション白書を参考にすると、政策提言が書きやすいと思う。特に政策提言は広く浅くにならないよう注意が必要かもしれない。

【体験談②：面接対策について】

- ・事務系：職員の方と話してフラッシュアップ：説明会や懇談会に参加し、職員の方々や同じく文部科学省を志望する方々と話すことがなによりの対策だと感じました。自身の考えは他者にどう映るのかという視点は、視野狭窄に陥らずに対策を進める上で重要です。
- ・事務系：面接練習を積む：友達でも先輩でも誰でもいいのでとにかく多くの人に、面接カード見せて評価してもらうことと、模擬面接をしてもらうことがおすすめです！/ 鏡やPC・スマホのインカメラを前にして、自分の表情（マスクをしているものの）などを確認しながら、本番を想定した受け答えの練習を繰り返しました。マスクをしていると声だけでなく表情なども届きにくいので、目元や姿勢から面接官に少しでも熱意が伝わると良いなと思い、「ちゃんとした」雰囲気を出せるよう意識しました。また、来訪者メモに書いた内容の他に、聞かれそうな質問リストとその回答を自分で作り、ある程度覚えるまで練習しました。これらの回答を覚えるにあたっては、移動時間などの隙間時間を活用しました。/ 面接練習は、大学のキャリアセンターや受験者同士の練習も行ったが、民間就活を並行して行っていたことが、1番の練習になったように思う。/ 志望者同士で、来訪者メモに沿った模擬面接もやってみた。
- ・事務系：自分の思考の整理を：政策の勉強は、入ってから死ぬほどできると思って何もしなかった。白書も読まなかった。（そんな時間なかった。）むしろ自分の考えを正しく伝えられるように、自分の考えを整理することに時間を割いた。これで良かったと思う。/ 興味があるなら白書を読んだりしても良いとは思いますが、業務説明会で十分な気もする。知識を詰めるよりも自分の考えをどうまとめて話すかに時間を割きたい。
- ・事務系：文科省の資料の有効活用！：「令和〇年度予算のポイント」が文部科学省HPからダウンロードできます。書籍よりも、簡潔に「今の文部科学省が何を重要視しているか」がわかるのでお勧めです。
令和4年度（昨年度）URL：https://www.mext.go.jp/content/20211223-mxt_kouhou02-000017672_1.pdf
- ・事務系・技術系：政策知識のインストを：政策のインストは省庁の開催する説明会やイベントに参加する中で行っていました。また、文科省を志望する他の受験生と一緒に週1,2回程度勉強会を行っていました。/ 『文部科学白書』と『子供・若者白書』はよく読みました。また、文部科学省のパンフレットと『内定者の声』は、直前期に一通り読み直しました。/ ほとんどの政策の内容はパンフレットに書いてある内容に毛が生えた程度です。政策提言で書いた内容に関連する政策については何度も聞かれるのでスラスラと話せるようになるくらいインストして周辺の政策についてもインストしました。/ 自分の政策提言に関わる部分のインターネット検索で引っかったものについて、精読していました。また、最新の白書については一通り目を通しました。/ 説明会と職場訪問等で聞いたことやレジュメが一番の政策インスト方法でした！
- ・技術系：身近な問題と結びつけて話す：人事院面接と同じ対策しかしていません。政策提言に関しても、自分の身近なところで問題を見つけて、それを解決するにはどうすればいいのかを文部科学省のできる政策と上手く結びつけていました。そうすれば、官庁訪問でも話しやすく、説得力のある受け答えができると思います。詳しいところは、官庁訪問中に業務説明を聞きながら考えていきました。
- ・技術系：勇気と感謝と敬意を：特に対策はないが、面接時に、①自分から挨拶するなど明るく（見せかけて）振舞う勇気、②職員さんの説明に対して大胆且つロジカルに「それってなんか意味あるんすか？」と突っ込める勇気、③お話をさせていただくことへの感謝と敬意、の3つを心の中に醸成しておくとなんともなる、かも。
- ・技術系：聞き手を意識して話す：面接では、①聞き手が映像化できるように固有名詞を使って話すこと、②1分以内で話すこと、③できるだけ簡単な言葉で話すこと、④やはり、を使わない、などを意識した。/ 質問に対して、結論ファーストで答えられるように訓練しました。/ 政策提言に関しては分かりやすく簡潔に伝えられるよう、研究室のメンバーに話して伝わっているかどうかフィードバックをもらっていました。
- ・技術系：想定質問を考えておく：自分の記入した来訪者メモを他人に見せ、もし面接官だったらどういう質問をするか聞きまくりました。誰かに客観的に評価してもらうのはいいかもしれません。
- ・技術系：面接は面接官とのコミュニケーション：大学のキャリアセンターで面接練習も含め、官庁訪問に関する基礎知識を教えてもらう機会を設けてもらいました。面接練習で議論になったのは、質問に対して自分が考えつく答えのうち何割を1回目の応答で答えるかという問題で、全部言ってしまうと冗長になってそのあとの発展性が期待できない反面、その後の展開を期待して小出しにすると、掘り下げられなかった場合にただの薄い回答になってしまうというリスクがあります。このジレンマは面接における永遠の命題だと思いますが、キャリアセンターの方はなるべく簡潔に答えるのがよいというご意見でした。一概には言えないですが、確かに脈絡なく思いついたままにだらだらと喋るのはよくない気がします。ただきちんと論理の系統がたっていればある程度長い応答でも十分許容されると思いますし、面接官の反応も見ながらコミュニケーションをとっていくことが結局大事なのだと思います。

【体験談③：グループディスカッションについて】

- ・事務系：和やかな雰囲気でした：グループディスカッションは非常に和やかな雰囲気の中で行われました。それまでのクールで話したことのあつた人ばかりであったこともあり、ホワイトボードを用いながら楽しく議論を進めました。/ みんな凄いなあと思ってボーッとしたり、終わっていた。みんな優しい。ボーッとするのはやっぱり良くないので、何か役割を見つけるといいかもしれません。
- ・事務系：他者との協働：相手の意見をよく聞くこと、他者と協働しながら方向性を見出すことを意識していました。焦りから感情的な言い方になってしまう人がいたり、相手の意見に反論したり論破したりする姿勢を持っている人がいたり、というグループは、グループ全体として良い結果につながらないと思います。グループの全員で、同じ方向を見て、尊重し合ってディスカッションを進めていけると望ましいのではないかと思います。/ 答えを出すことよりも、どう答えを出すかが重要だと感じた。
- ・事務系：評価を気にしすぎない：私は新たな意見を次々と出していくというよりは、それらを抽象化してまとめ、一つの考えとして構築していこうと意識していました。いわゆる調整役というものでしょうか。また、定期的に議論の状況を確認することで論旨にズレが生じないようにしていました。グループディスカッションにおいては殊更に評価などは気にせず、同じグループの方々と協力して一つの意見を形成していくという意識付けが、基本的かつ重要なことであると考えます。

官庁訪問体験談(続き)

【体験談④：官庁訪問で評価されたと思うポイント】

- ・**事務系**：自分の言葉で伝える：私は必ず、職員の方々の話や意見を抽象化して振り返った上で、そこから生じた疑問、考え、感想などを自分の言葉で伝えるようにしていました。こうすることで単なる一問一答形式の会話に終始せず、職員の方々と対話を重ねることができました。実際に自身の評価を伺ったところ、この姿勢が最終的な評価につながっていたことがわかりました。
- ・**事務系・施設系**：積極的な態度：自分が一方的に喋るのではなく、職員さんの話をよく聞いて、それを踏まえて積極的に質問をしながら双方向に对话を進めたところ。聞く際の態度（相槌の言葉、頷き、視線など）を職員の方から褒めていただいたのは今でも嬉しく覚えています。/ 大学時代を含めてこれまでの人生の経験とそこで感じたこと、文科省を志望した理由、将来仕事によってどんな経験をしたいか、/ どんな人間になりたいか、について着飾らず、自分の本当の思いを、自分の言葉で、一生懸命伝えようとしたことを評価していただいたと思います。
- ・**事務系**：官庁訪問を通じた成長：官庁訪問の期間を通じて、多くの面談を経験する中で、自身の考え方や話し方に大きな成長が見られた点が良かった、と言われました。自分では自分自身が「成長」しているかどうかはわからなかったのですが、振り返れば、面接が終わるたびに、話したこと、考えたこと、もっとこうすれば良かったと思うこと、これまでの面談と結びつけて新たに考えたこと、などをとにかくノートに書き出し整理して、帰宅後や休日にそのメモを復習して、次の官庁訪問で何を話そうか考えていたことで、毎度の面接がきちんと自分の糧につながっていたのかもしれない。
- ・**技術系**：文部科学省への志望度の高さ・視野の広さ・協調性がありコミュニケーション能力が高い点に加えて、面接で安定した受け答えができていた点、毎回の面接を自分なりにフラッシュアップして考えているのが伝わった点が評価された。相手の意見を受け入れつつ、自分の意見を常に持ち続けることができたところ。
- ・**技術系**：一緒に働きたいと思ってもらえるか否か：文部科学省への志望度の高さ、論理的思考力も含めたコミュニケーション能力の高さが評価に繋がったと言われた。人事課職員さんに一緒に働きたいと思ってもらえるかどうかにかかっているような気がする。/面接官との政策議論においてきちんと自分の意見を伝えられたことは評価されたかもしれません。正直知識がたくさんあったわけではないですし、的を射た意見を言えたという自負もあまりありませんが、それでも面接官の方とのコミュニケーションを意識して議論のキャッチボールを何往復か続けられたのは最低限のアピールポイントだったと思います。能力や資質の問題は確かにありますが、一番は「この人とは一緒に仕事していける」と相手に思わせることが大事なので、少なくともその点だけは疑わせないように誠実に、まじめに見えるようには意識しました。
- ・**技術系**：熱意や志望度の高さを示す：官庁訪問に限らず、就職においてどの位志望度が高いかアピールできるかがポイントだと思います。私は説明会や職員訪問、相談会、政策シミュレーションなど色々な説明会に行き、職員さんの話を来訪者メモや面接に取り入れたのは評価されたのではないかと思います。/ 入省したいという熱意だと思います。

【体験談⑤：官庁訪問で聞かれた内容・印象的だったこと】

- ・**事務系**：民間セクターの力をいかに使っていくか？（科学技術・文化・スポーツに絡めて）←集団面接で聞かれた一問。一つ分野に限らず、文部科学行政について準備段階から幅広く検討できると良い。
- ・**事務系**：政策提言について「これまでの面接を経て、内容について何か修正したいところはあるか？」と聞かれた上で面接が始まった。来訪者メモに書いた政策は、官庁訪問での面接を通して何度もフラッシュアップされるので、（控室などで修正点を振り返った上で）面接のたびに提言する政策の“最新情報”を職員の方に伝えられると良い。
- ・**事務系**：初日のある面接において、「質問に対する正解を答えようとするあまり、〇〇さん自身の人間性が見えてこない」とご指摘いただいたことが印象に残っています。当時を振り返ってみれば、各面接で得た情報をまとめ、それらをアピールすることに必死であり、肝心の「自分自身」を見失っていたと思います。職員の方々の意見をふまえ、それらをどのように「自分自身」に肉付けしていくかが大切であると学びました。
- ・**事務系**：先生が1人余っています。①1人の不登校児童の対応に当らせるか、②クラスを増やし少人数学級化を図るかならどちらを選びますか？/ 教育政策の立案においてエビデンスが必要な理由は何だと思いますか？
- ・**技術系**：初等教育から科学技術を授業に取り入れることは、確かに科学技術についての理解を深めることができるけど、そこから研究の道に進む人が増えるとは限らない。そこをどう考えて政策をするべきかと聞かれたのが、第1チーム2人目の面接官の方だったので身構えてしまいました。自分の研究室の問題点を挙げてと言われたのも、来訪者メモに書いていた志望動機とは関係がないことだったので戸惑いました。
- ・**技術系**：（失礼だが）日本の研究力の今後について悲観的な質問をした際に、様々な施策や政策の方向性をエビデンスベースで説明し「日本の大学は変わりますよ！」と力強くおっしゃっていただいた時に、ここで働いて自分もその政策に少しでも貢献したいと思った。
- ・**技術系**：趣味は何？/ 優秀な研究者の定義ってなんだと思う？/ ストレス解消法を3つ教えて？/ 雑談に近い質問としては「これまでの人生で一番ラッキーだったことは？」と聞かれ、ある意味一番答えに詰まったかもしれません。官庁訪問も終盤でほぼ趨勢が決まっている段階だったので余興のような質問でしたが、結構迷って結局エピソードを捏造してしまいました。ただ1日目、2日目でそんな瞬発力テストみたいな質問が来たことはなかったので恐れる必要は全くないです笑。
- ・**技術系**：1日目の午後に「きみはジェネラリストになりたいと言っているけど、官僚も言ってしまうと政策、法律のスペシャリストだね」という指摘をいただきました。自分自身に欠けていた認識であり志望動機やその後の受け答えを考え直すことができたので、とてもありがたかったです。扱う分野は多様である一方で、手段としての政策を極めていくという官僚のモデルを提示されたことで、将来のビジョンをより明確に描けたと思います。

【体験談⑥：官庁訪問での成功談】

- ・事務系：毎度の面接を楽しむ：あまり緊張しないタイプだったので、毎度の面談を楽しんで臨めたことは良かったと思っています。官庁訪問は、慣れない環境で、待機時間も長く、緊張していると体力的にも精神的にも参ってしまうので、消極的・否定的な思考は転換して、前向きに、自信を持って、臨んでいく方が、希望が見えてくるのかなと思います。
- ・事務系：身近な人に相談することで悩みを解消：私の課題であると指摘され、なかなかうまく答えられなかった問いがあり、どう答えれば良かったか、どうしたらこの課題を克服できるのか、と、ずっとモヤモヤしていたのですが、そのことを母や友人に話しているうちに、だんだんと自分の思考が整理され、克服すべきポイントが明確化されていき、次回以降の面接にも前向きに向き合えるようになりました。ひとえに私の話を聞いてくれた周囲の方々のおかげだと思いますが、一人で悩んで考えが詰まってしまった時には、身近な人に話を聞いてもらってアドバイスをもらうと良いと思います。
- ・事務系：複数省庁を回ることによる深み：官庁訪問では3省庁回った。体力的・精神的にもきつく感じる瞬間もあったが、それぞれの省庁が所管する分野の特徴やそれに応じた政策デザインの話を聞くことができたのは大きな収穫だった。就職先を選択する上でも、各省庁を比較した上で自身を持って判断できたと、面接における政策議論についての発言や提案でも深みがでたと思う。短期間の間に各省庁の職員の方とお話させていただき、政策の背景にある思想やデザインなど多くのことを吸収できた貴重な経験だったので、複数省庁を回られることを是非おすすめしたい。
- ・事務系：気持ちの切り替えが何よりも大事：第1クール1回目の個人面接で、どの質問にも上手く答えられず深く落ち込んだが、気持ちを切り替えて控え室で面接の内容を振り返ることで、次の面接では面接官の方と有意義な議論を交わすことができた。その後官庁訪問の終盤に、上手く答えられなかった時の面接官の方と再会し「あの面接からメンタルを崩さず、上手くリカバリーできましたね〇」と評価していただいた。→面接の機会が何度かある官庁訪問だが、単純に一度の面接の結果でバツサリ落とされることはほとんど無いのではないかとと思う。仮に面接で失敗してしまったとしても、次以降の面接までに失敗の原因を分析、修正することが大切だと感じた。
- ・技術系：面接を楽しむ：滞りなくどの面接官の方とも話せました。自分がやりたいこと（就活の軸？）を楽しく話すのが大切で、そうすれば面接官も興味を持って聞いてくれます。どの面接官の方も自分の意見を持って仕事に専念されているというのが話を聞いていて分かるので、それを汲み取って吸収し、自分の考えにも生かそう！という勢いで毎回望みました。
- ・技術系：気の利いた逆質問を：逆質問の時間は必ずあります。面接官の話に関連する質問がベストですが、思いつかなかったときのためにどんな人にも聞ける質問を用意していました。例えば自分のバックグラウンド（議論系の活動）を踏まえ、「これまで対立を乗り越えて合意を達成した経験はありますか？」という逆質問をした気がします。逆質問で何を言ったかも控えられている可能性があるため、気の利いたものを何種類か用意しておくべきかもしれません。また、面接官の方が言われたことを自分なりにかみ砕いて、別の言葉に直して繰り返すのも効果的かもしれません。（「つまり～ということなんですね。よくわかりました」）その間にその後の展開を考える時間も稼げますし、自分の意見を組み立てることもできます。
- ・技術系：反省点を整理して自信につなげる：官庁訪問中にフィードバックはなかったため、良かった点と改善点を控え室に戻るエレベーターで整理して戻ったらすぐにノートにまとめるようにした結果、自信をもって話せるようになりました。

【体験談⑦：官庁訪問での失敗談】

- ・事務系：エコバッグで面接に…：バッグの容量が少なかったことに加えて荷物が多かったことから全てをバッグに入れることが出来ず、バッグの他エコバッグを持っていきました。控え室では特に問題ありませんでしたが、荷物を持って職員の方と会う機会が何度かあったので失敗したな、と思いました。
- ・事務系：腹が減っては戦ができぬ：いつ面接に呼ばれるかわからない恐怖で初日は食事があまり喉を通らなかった。腹が減っては戦はできぬ。ゼリー状の栄養ドリンクや軽食など少しでもいいのでお腹に入れておくと、長い面接を乗り切りやすくなる。/官庁訪問中にみんなが夕飯を買うために職員さん引率のもと一階のコンビニに降りてきたら、自分がからあげを買って温めている間にみんなに先に戻られてしまった。夜で既に正面玄関は閉まっており、守衛さんに声をかけて通してもらおうとしたら学生証の提示を求められた。既に社会人のため学生証はなくマイナンバーカードを見せたら身分確認のために10分ほど待たされ、控え室に戻る頃にはからあげが完全に冷めていた。
- ・事務系：面接は準備が肝要：グループ面接は一定回答の時間が限られてくるため、コンパクトに自分が言いたいことを伝えられるように特に来訪者メモに書いた事項に関してはあらかじめ話せる準備をしておくべき。/準備不足だとズバツといわれて落ち込んだ。第3クール前日にメンターの方と電話して、不安で泣いた。
- ・事務系：待ち時間は長い：待ち時間に職員の方が来て、雑談かと思ったら面談だったこと。知らずにネイルの話で盛り上がってしまった。/待ち時間はひたすら長く気絶しそうになるが、各面接で職員の方と話す時間は楽しくあったという間だった。/第1クール1日目の最後の出口面接までの待ち時間が長く感じたが、最後にちゃんと職員の方に見送ってもらえて胸を撫で下ろした。
- ・事務系・技術系：時間には余裕を持って！：朝の新橋駅が思ったより混んでいて2本遅い銀座線に乗ることになり、虎ノ門駅から少し走ることになりました。/通勤ラッシュに巻き込まれてしまい、最寄り駅に到着するのがかなりギリギリになってしまい、朝から走ることにしました。
- ・技術系：6月でも暑い：既合格者向けの官庁訪問は6月上旬ですが、東京はすでに暑い。夏用スーツをおすすめします。（私は厚手のスーツで訪問してしまい、失敗しました。）
- ・技術系：面接は準備が肝要：自分は二日目です事前対策をせずに臨んだため、知識不足すぎて職員の方と話す土台すら危うかった。第一クールは散々で、失礼なことをしたと反省し、第二クール以降は教えていただく意識で、良い経験になると思いながらお話を伺っていた。最終的には、自分の思いが文科省に傾き、懐の深い職員の方々に採用していただけた。
- ・技術系：失言に気をつけて！：1クール目の官庁訪問の途中で、自分のやりたい政策が何なのかわからなくなりました。その時に、「職員の方と話している中で自分の考えがわからなくなっています」と面接中に言ったのが失敗談です。
- ・技術系：面接回数や年次を過度に気にしすぎない・緊張しすぎない：よく面接回数や面接官の方の年次が自分の評価を測るバロメーターになる、と言われます。そのような側面が0かというところも言えないのかもしれませんが、結局僕が語れるのは一人の経験談だけです。けれど僕の場合、若い職員の方から年次が上の職員の方まで幅広く面接していただきましたし、順に年次があがっていったわけではありません。（しいて言えば2日目の午後と3日目以降は年次が高めだったかもしれませんが、それでも若手職員とお話することはありました。）ちなみに「荷物をすべて持ってください」は不採用フラグだといわれていますが、文科省の場合は全員いつでもそう言われます。/人事課長に初めて会う時は緊張して滑舌がかなり悪くなってしまいました…。

官庁訪問体験談(続き)

【体験談⑧：官庁訪問中の控え室での過ごし方】

- ・ **事務系・施設系**：他の受験者との情報交換：第1クールは控え室で話すことが出来なかったため、同じく官庁訪問している友人とLINEですっと連絡を取っていました。第2クール以降は同じ部屋にいた受験生と雑談をしたり、あるテーマについて意見を出し合ったり、面接で聞かれた話を共有したりして過ごしました。/ 他の受験者と情報交換をしていました。他の人と喋ることで、気分的にリフレッシュにもなり、自分の思考も整理されていった気がします。
- ・ **事務系**：面接の振り返り：個人的には、前の面接の内容・反省点・学んだことをメモしたり志望動機や政策提言を読み直すなど、勉強の時間に充てるのがおすすめです。勿論友達と話してリフレッシュするのも大切です！/ 面接が終わるたびに、職員さんのお名前や経歴、話したこと、考えたこと、もっとこうすれば良かったと思うこと、これまでの面談と結びつけて新たに考えたこと、などをとにかくノートに書き出し整理していました。面接中はメモを取れない可能性が高いので、時間が経って忘れないうちに控え室ですぐにメモを残すようにしていました。控え室ではそのノートを繰り返し見て自分の思考をまとめ、次の面接で何を話そうか考えていました。/ 職員の人に言われたことをノートにまとめて、自分でまた考えるというのを繰り返していました。それ以外の時間は周りの子と喋って、政策のネタなどを教えてもらっていました。
- ・ **事務系**：研究の作業：研究でやらなければいけない作業があったので取り組んでいました。少し別のことに思考を持って行けたので、ちょっとした気分転換になりました。
- ・ **技術系**：職員の方との交流も：あまり覚えていないが、常に職員さんがいて、どちらかという職員さんとの交流がメインだった気がする。/ 余裕があるときは先輩職員の方と話していましたが、考えることがあるときはメモや資料を振り返っていました。面接後には、話した方の名前、部署名、話したこと、志望動機のフラッシュアップをおこなっていました。
- ・ **技術系**：他の受験者との交流：控え室にいた受験生とずっと雑談していた。先に同期と仲良くなれておけて良かった！！/ 他の受験生と話していました。昼ご飯は他の受験生と食堂やコンビニで買った物を一緒に食べました。/ 控え室の人と仲良くする方がいいと思います。私は人の名前を覚えるのがとても苦手なため、控え室に帰った時に教えてもらいました（悪い例なので参考にしないように）。面接しながらメモ取っていいみたいなので、忘れてしまう方はその場でメモした方がいいかと思います。聞き取れなかったので最後に名前をもう一度教えてくださいとか、どんな漢字ですかと聞く強者もいました。
- ・ **技術系**：面接の振り返り：ノートを1冊持って行って、面接で話した内容をまとめることもしましたが、後半にいくほど適当になりました。ただ自分の志望動機や政策提案の根幹にかかわるコメントバックをもらった場合はそれを忘れないように、強調してメモに書きとめました。
- ・ **技術系**：読書：白書や業務説明パンフレットも控え室に用意してあったのでバラバラと流し読みしたり、スマホで気になったことを調べたりして情報のインスットも少ししていました。あとは控え室に『宇宙兄弟』が置いてあったので、どんどん読み進めていました。ちょうど宇宙飛行士の選抜試験の場面だったので官庁訪問と重ね合わせて感慨深かったです。官庁訪問期間中に全30巻ほどを読んでしまおうと思っていたのですが、途中の9巻だけなぜか無くそこで止まってしまいました。（その後宇宙開発利用課の方が購入されたそうです。）その後は家から持ってきた小説を読んでいましたが、正直あまり集中できませんでした。

【体験談⑨：官庁訪問中の持ち物】

- 持っていくと良いもの
- ・ 軽食や飲料は多めに
- ・ ハンカチ・ティッシュ（いつもより余分に）
- ・ 予備のマスク
- ・ 予備のストッキング（女性）
- ・ いつも持ち歩いているお守り的なもの
- ・ 身分証（学生証）
- ・ 昼食
- ・ 靴磨き
- ・ 折り畳み傘
- ・ モバイルバッテリー
- ・ 来訪者メモのコピー
- ・ 省パンフレット・白書（興味のあるところ等を抜粋して）※白書は控え室に用意があった。
- ・ ポケットに入る紙のメモ帳（面接官に言われたことをメモするため）
- ・ iPad（白書やこれまでの説明会の資料を入れていた）
- ・ 名刺入れ（職員の方が毎回くださるので）
- ・ 交通系ICカード（お昼ご飯時）

※上記全てを持っていくのではなく、必要に応じて持ち物はある程度絞った方が良いと思います。
官庁訪問中は、面接がある度に荷物をすべて持って移動することがほとんどです！



【体験談⑩：官庁訪問中の宿泊先の選び方】

○特に重視すべき3つのポイント：

- ①震ヶ関から近い ←なるべく近いところがいいと思います！
- ②部屋がある程度広く大浴場がある ←滞在期間が長くなるので、快適さは大事です！
- ③値段 ←都内のホテルはどれも高いですが、可能であれば少しでもお財布に優しい場所を…！

○その他考慮すべき条件

- ・ホテルのフロントで即日仕上げのクリーニングが出せるところ。
- ・東京メトロ各線震ヶ関駅または銀座線虎ノ門駅まで乗り換えなしで行ける。
- ・夜遅くまで営業しているスーパーorコンビニが近くにある。

○おすすめの場所

- ・築地や東銀座←震ヶ関へのアクセスが良いことを第一に、その中で比較的ホテル代が高くない場所を選ぶようにした。日比谷線で乗り換えることなく15分ほどで震ヶ関に行くことができ、またコンビニなども多いため便利だった。
- ・赤坂見附←アクセスを重視。防衛省を除く省庁は、およそ震ヶ関もしくは虎ノ門が最寄り駅かと思います。そうなれば、3省庁回る中で、「今日は虎ノ門が最寄り」「今日は震ヶ関のほうがいい」といったことがあるかもしれません。その点、赤坂見附は丸ノ内線・銀座線の両方が通っているので、良かったです。
- ・文部科学省まで徒歩で行ける距離のホテル←既合格者向けの官庁訪問だったため、宿泊日数は少ないことから、金額よりも距離を優先した。

【体験談⑪：官庁訪問中の休日の過ごし方】

○人と会って気分転換

- ・官庁訪問している友人や学校の友人、官庁訪問の準備でお世話になった先輩に会った。
- ・友達とかに会ってリフレッシュするのが1番かなと思います。
- ・同じく東京に就活しに来ていた大学の友達と遊んだり、小学校の友達と食事に行ったりしていた。
- ・家族とドライブに出掛けて気分転換しました。官庁訪問期間は結構疲労が溜まるので、休日は、疲労を回復し体調を整えられるような過ごし方をおすすめします。

○面接の振り返り

- ・第一クールと第二クールの間の休日では、第一クールの反省点の抽出と第二クールに向けた修正や、第二クールで聞きたいお話についての整理、学生同士での意見交換等を行いました。官庁訪問では成長が見られているというお話はよく聞くので、勿論リフレッシュも大切ですが、休日も無駄にせず復習の時間に充てるとより内々定に近づけると思います！
- ・フィードバックをもとに、志望動機と政策提案を再考してそれぞれノート1枚程度にまとめる作業をしました。官庁訪問前に聞いた話を踏まえて語れるように使えそうなネタを整理するのは効果的だと思います。
- ・各クールの振り返りと、面接で新たに得た情報の深掘りに当てていました。

○睡眠も大事

- ・第3クールと第4クールの間は、主に寝ていたんじゃないかと思います。
- ・14時ぐらいまで寝ていた。

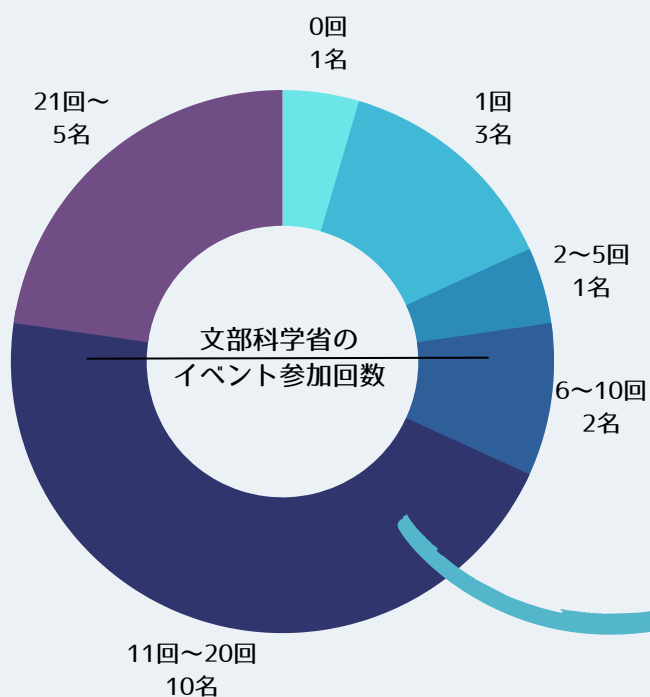
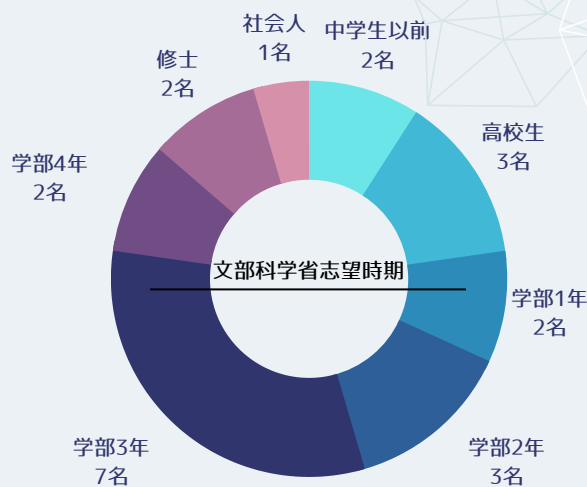
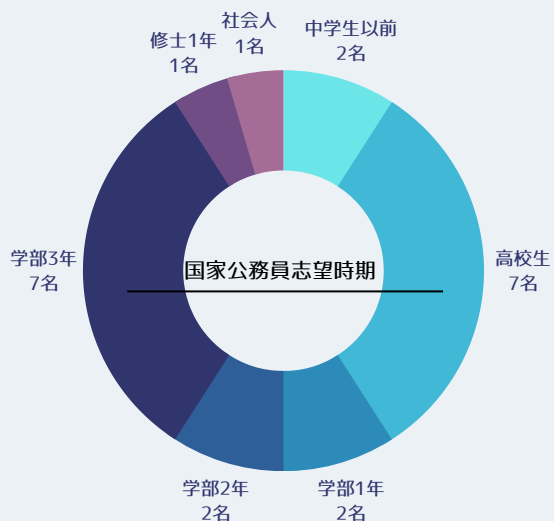
○その他にも…！

- ・官庁訪問が終わったらやりたいことや会いたい人を考えて気分を上げていました。
- ・マッサージに行った。
- ・ホテルの周りの散歩をするなどして気分転換を行った。
- ・学会で栃木へ。
- ・官庁訪問期間最初の休日は、まずは寝溜めして、その後1時間程第2クール以降の作戦を練ったり、久々にちゃんとしたご飯を食べに行ったりしました。2回目の休日は、友達とご飯を食べに行ったり、新宿に買い物しに行ったり、寝る間を惜しんで好きな事していました。

0 4

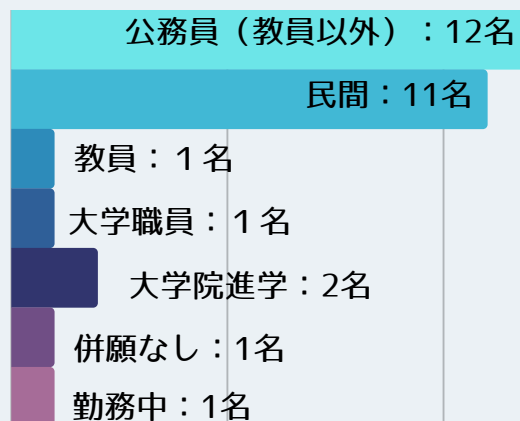
就職活動体験記

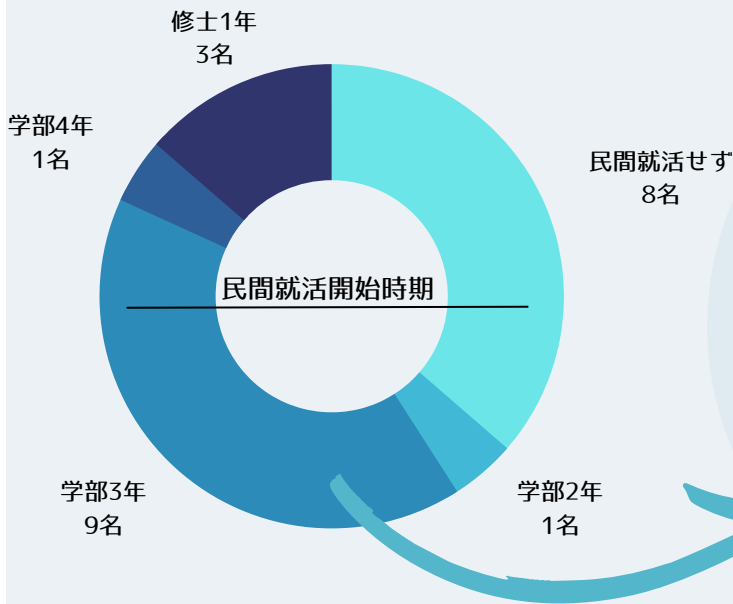




【どのイベントに参加したか】

- ・ 業務説明会 20人
- ・ 職員訪問 18人
- ・ 少人数座談会 14人
- ・ 政策シミュレーション 12人
- ・ インターン 7人





【民間の併願企業・業界】

コンサル、メガバンク、
政府系金融機関、海運、
人材会社、教育関連企業、
インフラ（電力、ガス）、
独立行政法人、私立大学法人、
シンクタンク 等

【民間就活や研究との両立について】

○民間就活について

・ **志望度との兼ね合いで適度に力を抜くべき**：法律区分試験の試験勉強と民間就活の両立は本当に大変で、私は民間企業の本選考は3社のエントリーで限界でした。国家公務員の方が志望度が高い場合、まずは公務員試験に合格することを第一目標に据え、時間と気力を取られすぎないように民間就活に臨むのが良いかと思います、、！/ 民間と公務員で志望度が同じくらいなら別だが、公務員メインで考えているなら、民間就活をどこまで力入れるかは悩みどころ(官庁訪問等の面接対策、公務員がダメだったときの選択肢というメリットがある反面、公務員試験の勉強時間が奪われる、そもそもその企業に入社したいと本気で思っているかということも考慮しないといけなかった)。/ 民間就活は、自分の軸にしっかり合うところだけを受け、ほどほどにしておいた。/ とにかく時間が足りない。全部100%は無理なので、集中すべきところを見極めて、あとは多少の妥協も必要。

・ **民間就活の経験を官庁訪問に活かす！**：私は民間就活も行いました。対企業という点で対策の仕方は少々異なるものの、自分自身をアピールするという点では公務員試験も民間就活も変わりません。自己紹介をはじめとした基本的な質問を民間就活において準備したため、官庁訪問対策がスムーズに進んだ面もあります。また、公と私の役割の違いが明確に認識できるなど、民間就活をしたからこそ得ることができた視点もありました。/ 民間就活では政府系機関を中心に受けたので、どうしても4・5月の面接時期と試験時期が重なりました。工夫としては「志望する省庁の外郭団体や職務内容の被る機関を受ける」というのが一番でした。官庁訪問対策にもなり、政策への民間視点を持てるので、とても有益でした。/ 民間の面接でガクチカなどのエピソードを話してみ、フィードバックをもらい、人事院面接や官庁訪問に活かした。

・ **民間就活よりも公務員併願を選択**：民間就活はしていません。公務員試験の中で色々と併願するというのがやはり楽だなとは思っています。

・ **進捗やスケジュールの把握を**：冬のインターンシップや3月の解禁日以降は試験勉強との両立は非常に忙しかったが、それらの経験がすべて官庁訪問や人事院面接等の準備になるので、試験勉強の合間にはっきり時間を見つけて行った。特に3月4月は急遽民間の面接等も入ることがあるので、1週間単位などで細かく進捗やスケジュールの管理を行うことが重要だと思う。/ ダブルスッキングをしがちになるので、スケジュール管理は気をつけてください。

・ **就活軸を明確に！**：結局何がやりたいのか、どうしてそれを選ぶのか、自分の軸を一貫させておけば、民間就活においても下手に志望動機をこねくり回す必要もないと思う。

○研究について

・ **官庁訪問期間中のイレギュラーには前もって準備を**：官庁訪問の間研究を止めないといけないことには苦労しました。前もって実験の予定を調整したり、研究室の同期に実験に使う植物体のお世話をお願いしたりしました。

・ **官庁訪問期間は官庁訪問に集中**：試験前の12月末までにある程度の作業を進めておき、官庁訪問までは就活に集中できるようにしておいた。/ 教授への報告を早めに行った。

【就活の情報収集について（苦労したことや工夫したことなど）】

- ・ **インターネット・SNS・知合いの活用**：周りに就活している人がいなかったの、情報収集には苦労しました。インターネットを活用する他、先生や友人に知合いを紹介してもらって、情報収集などを進めました。／志望省庁のホームページを始め、Twitterや学内講座の掲示を頼りに情報を集めていました。／特に国家総合職においては人脈（内定者、同期、説明会でお世話になる職員の方など）が重要になるように思う。／ネット中心の情報収集でした。最近は優秀な就活支援サイトが多いです。／企業のHPを閲覧したり、説明会に参加したりOB訪問をするなどして情報収集をしていました。／研究室にたまたま先輩がいたからよかったですが、情報収集はかなり大事な気がするのと人の繋がりを作りに行くことは大事かもしれません。
- ・ **信頼できる情報源（説明会等）から情報を集める**：私は独学だったので、試験対策書籍、各省庁と人事院のHP、先輩からのアドバイスを中心に情報収集をしていたのですが、官庁訪問が始まってから他の受験者に聞いて初めて知った情報もあり、独学の受験者にとっては情報収集が課題だと痛感しました。対策本に書かれている情報には限りがあり、ネットに載っている情報は信憑性が不明な部分が大いにあります。信頼できる書籍を参照することと、実際に受験した人の話を聞くことがやはり一番理解できると思います。省庁が実施する業務説明会や現役職員との面談など、いわゆる「公式」な説明の機会を最大限活用して、聞けることはたくさん聞いておくことをおすすめします。／院生になってから周りで就活をする人が少ないこともあり、インターネットでの情報収集も行ったが、あまりそれらの情報に左右されすぎるのも良くないと感じた。企業等の説明会等には積極的に参加し情報を集めつつ、あとは自然体で臨むことも自分的には良かったのかなとも思います。
- ・ **説明会にはできれば対面参加を**：オンライン化が進み、その恩恵を享受しながらも、職場や職員、他の志望者の雰囲気といった肌で感じるタイプの情報を収集するために、可能な時は対面でイベントに参加するようにしていました。
- ・ **能動的な情報収集を！**：ボーッとすると、何も入ってこないの、それなりに自分から動かないといけない。それでも北海道とか地方だと、自分の意識がないとどうしても情報は来ない。でも案外大丈夫だと思ったりもする。
- ・ **予備校の活用**：塾に通っていたので情報はほぼそこで得ていました。あとは積極的に説明会に参加するようにしていました。ネット上や受験者の間ではすごくたくさんの情報がまわっていますがその情報はあまり信じないようにしていました。

【その他全般就活についてのアドバイス・メッセージなど】

- ・ **一見興味がない分野から得られる発見もある**：興味がない分野でも時間が許す限り覗いてみると、発見があっていいかもしれません。公務員第一志望だが民間の内定も欲しいという方はとりあえず政府系金融が独立行政法人等の外郭団体を見てみてほしいです。
- ・ **業務説明会に参加しよう！！**：説明会にたくさん参加しましょう！文科省の官僚がどのようなことを考えて日々仕事しているのか想像がついていると、自分の知見のみならず官庁就活全般で有利になります！
- ・ **人との出会いを大切に**：就活でいろんな人に会っているんな感情を体験して、財産にしてください。／これほどまでに自分というものを見つめ、他者に発信していくという経験は、人生においても中々ないと思います。自分を相対化、客観視することで、ときに恐怖や不安を覚えることもありますが、同時に今まで気づかなかった強みに出会うこともあります。そして、こと就活において、その気づきを与えてくれるのは他者です。説明会や面接への参加など、とにかく行動に移し、他者に出会うことから始めるのが肝要であると思います。そして、私たちからは「自分」という存在から逃げることはできません。であるならば、決して自分を悲観的に見ずに、ぜひ前向きな気持ちで長い試験を乗り越えていただければと思います。
- ・ **自分に自信を持って前向きに努力を続けよう**：世の中限りなく上には上がいて、自分って何の取り柄もない人間なんだなと思う日があるかもしれません。しかし、今まさに夢に向かって頑張っているということ自体、普通の人には出来ない皆さんの取り柄だと思います。自分のこれまでの経験に誇りを持って、自分の考えに自信を持ち、胸を張って最後まで夢に向かって頑張ってください。応援しています。／問題点を指摘されたり上手いかなかったりして自信を失いそうになることや、周り比べて不安になることも多々あると思いますが、自分自身の選択肢を自分自身で見つけて選んでいくプロセスなので、自信を持って前向きに取り組むことが大事だと思います！また、一人でできる対策には限りがあると思うので、各省庁が開催している説明会に積極的に参加したり、先輩に話を聞いたりして、視野を広げつつ検討を進め思考を深めると良いと思います！頑張ってください！！

01

02

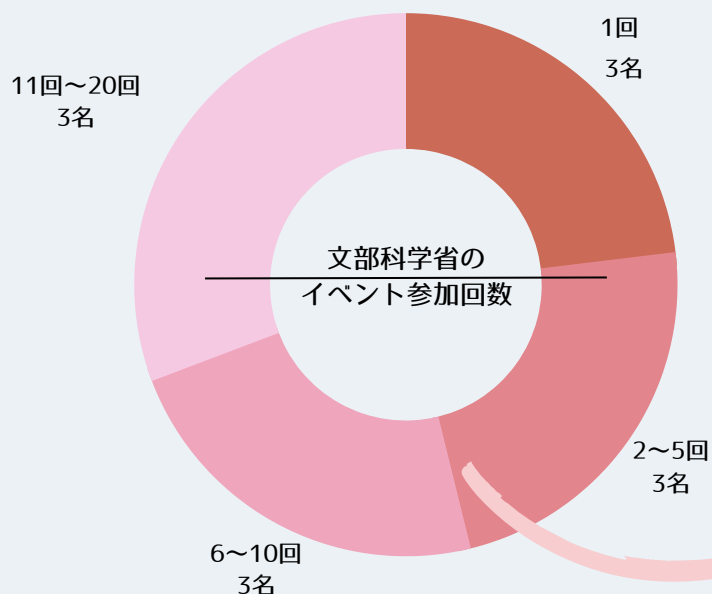
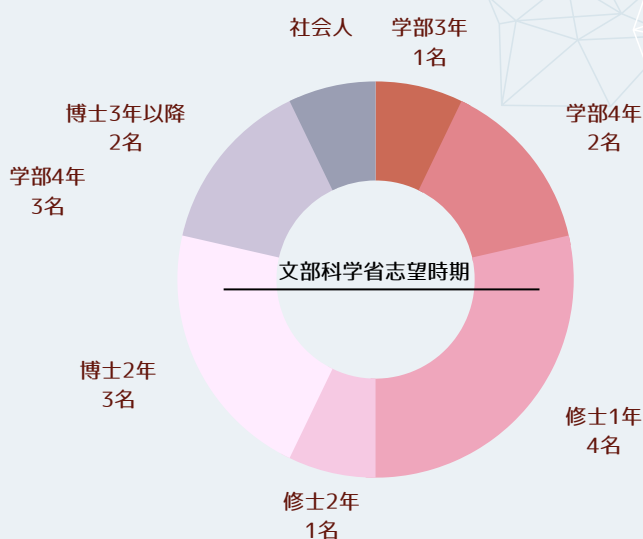
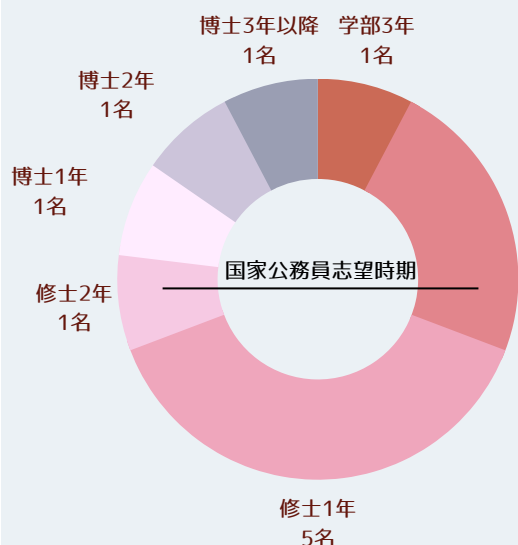
03

04

05

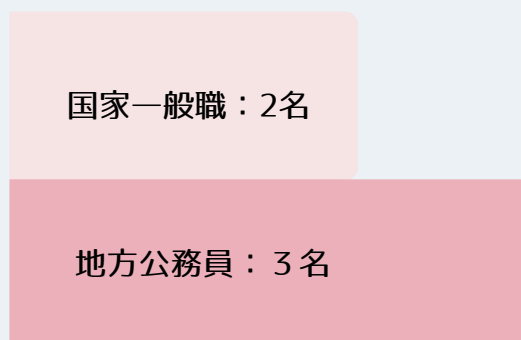
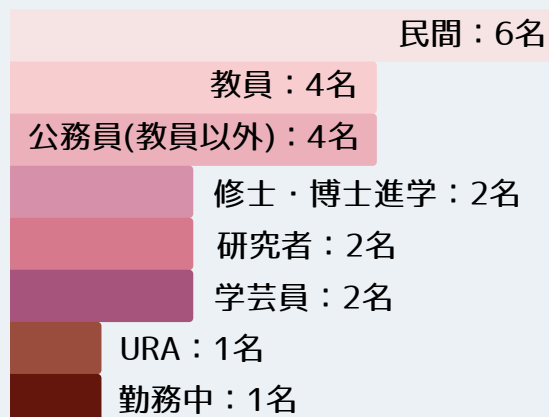
06

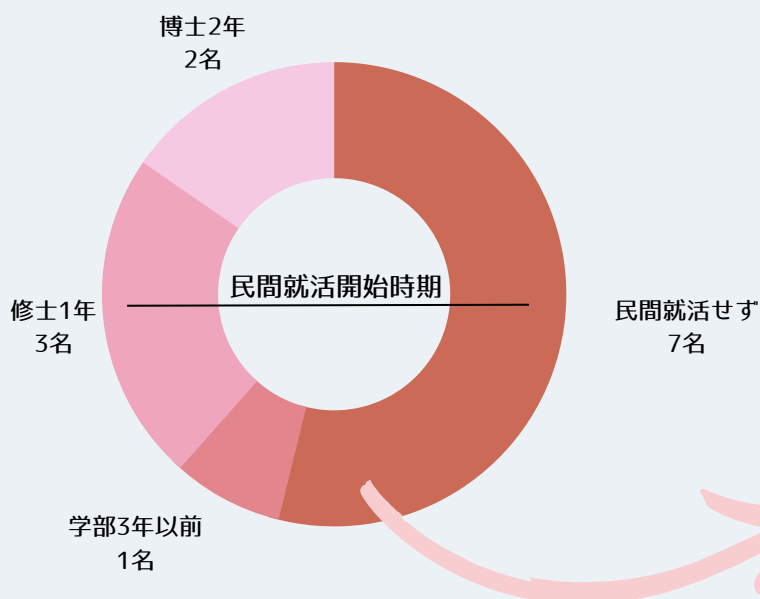
07



【どのイベントに参加したか】

- ・ 業務説明会 12人
- ・ 職員訪問 5人
- ・ 少人数座談会 7人
- ・ 政策シミュレーション 5人
- ・ インターン 1人





【民間の併願企業・業界】

研究者、
独立行政法人、
コンサル、商社、食品、
製薬、自動車、園芸 等

【民間就活や研究との両立について】

○民間就活について

・ **民間就活での経験を官庁訪問に活かす！**：民間就活はむしろ官庁訪問に生きたのでやってよかった。
・ **事前に計画を立てよう**：民間就活との両立については、3月のエントリーシートを大量に書かないといけない期間と一次試験対策の期間がかぶっていたので、その時期は民間就活のほうに注力していたかもしれません。マルチタスクにこなすことがあまりできず本格的に勉強したといえるのが3月後半ぐらいからなので、公務員試験対策を毎日決まった量進めるように計画立てていればよかったと思います。民間の数はある程度絞っていたこともあって、5月以降は基本的にバッティングすることなく、その時に必要なことをこなしていくことで過ぎていきました。

○研究について

・ **教授やラボのメンバーにサポートを頼んでみよう**：（研究との両立は上手くできませんでしたが、）教授のサポートが必須だと思ったので、試験の日程・内容は把握してもらっていました。/ 研究はつらいがラボメンの存在はプラスなので、いろいろ相談しながら頑張った。/ 研究室によっては官庁訪問で2週間離れることについて交渉が必要になると思います。日頃から実験に注力して教授等の信用を得ておくことが大切だと思います。
・ **文部科学省の採用担当側も対応してください**：官庁訪問中は研究を止めていたが、文部科学省は本来研究を推進するべき側の立場なので、事情を話したらなんとかしてくれるかも（と思える優しさと配慮をいろんな場面で感じる）。
・ **きちんとスケジュール管理を**：実験には待ち時間があると思うので、その時間を上手に活用すれば、実験を止めずに勉強できると思う。/ 国家公務員試験は事前にこの時期に試験があり、面接がありと予定が組みやすいですが、民間就職では予定が立てられず研究との両立が大変でした。博士就活ならではかもしれませんが、日程が非公開でその会社の会員にならないと日程がわからないというものもあったので、その期間はほとんど研究に手がついてませんでした。/ 試験期間中に学会が入っていたため、実験・資料作成・試験勉強の時間配分に苦労しました。期間別で注力することを分けた方がうまくいったのではないかと思います。
・ **既合格試験の受験も一手**：官庁訪問の2週間は完全に研究が止まった。民間の就活はほぼ終わっていたので民間への影響はなかった。既合格のほうで短期間で終わるため一年前に試験を受けておけばよかったと思う。

01

02

03

04

05

06

07

【就活の情報収集について（苦労したことや工夫したことなど）】

- ・ **早めの自己分析**を：就活は情報自体は無限にあるので、業界・分野を絞らないと何も進まない。何がやりたいのか、何に興味があるのか、という自己分析は早めにしたほうが良い。
- ・ **なんとかかな**：技術系の官庁訪問の情報がネットに全然なくて困った。先輩やOBを見つけることは大事だが、別に特有の決まりや裏ルールがあるわけではないので、ぶっつけ本番でもなんとかかな印象だった。/ 周りに公務員を受験する人がいなかったの、心が折れそうになりました。「できる」って言い聞かせながらやっていました。/ 官庁訪問の中身についての情報があまりなく当日出たとこ勝負だった。
- ・ **内定者の声を活用すべし！**：数物地区分の情報が過去問の傾向を含めて全くなかったの、手探り状態の中で勉強していました。数物地区分であれば、内定者の声が一番有力な情報源だったと思います。他の区分であれば、工学区分の人などのスログで勉強方法が書かれていたので、少し参考にしてました。
- ・ **説明会や職員訪問、内定者懇談会も活用すべし！**：国家公務員の説明会や、職員訪問をしながら情報を集めた。友人や大学のキャリアサポート室に相談した。/ 国家総合職、文部科学省の情報収集については、大学主催のイベントに文部科学省含めて他の省庁が参加していたものがあつたので、そこで職員の方と話して、仕事の内容や雰囲気とかを聞くことができました。（そのときに試験勉強について質問したら、「筆記試験で落ちる人はいないと思うよ～」と言われて、ひゃ～となりました。内定後にそのことをご本人に伝えたら、「そんなこといった？ スレッシャー与えちゃって、ごめんね～」とのことだったので、冗談かもしれないです。）
- ・ **大学のキャリアセンターやSNS、インターネットも活用すべし！**：公務員試験用のSNSアカウントを作り、情報を集めていました。/ 周りに公務員志望の人がいなかったことや技術系の公務員就活に関する資料があまりなかったために情報収集には苦労しました。大学のキャリアセンターの人と面談したり、説明会に参加したり、インターネットで調べて情報収集していました。/ 総じて情弱で苦労しましたが、公務員試験については本命だったこともあって友人やキャリアセンターの方から積極的に情報を収集しました。学卒をどれくらいとってくれるのかや、工学区分が文科省にどれくらいいるかなどは気になったので、内定者の声やパンフレットを見ました。そのほか試験の目標点数だったり官庁訪問の体験記・攻略法だったりを知りたくてネットを見たりもしましたが、特に後者についてはいたすに不安があられるだけなので話半分でいいと思います。知りたかった官庁訪問についての情報が情報が結局官庁訪問に行くまでわからなかったの、内定者懇談会に積極的に出ていけばよかったと思いました。

【その他全般就活についてのアドバイス・メッセージなど】

- ・ **博士課程後の進路開拓のヒント**：博士課程の就活なので最初は不安でしたが、情報収集の中でポスドク以外にも現在は多様な選択肢があることを知りました。まずは大学のキャリアサポート室に相談することをおすすめします。/ 博士は本当に就職先がないと思うので、アカデミアとか民間の情報・工学系とか製薬系とかデータアナリスト系とか（ギリギリ博士でも就職先のある分野）以外で何かないかなーと感じている方は、文科省はオススメかと思います。実際に博士の採用割合も上がっているし、人事院勧告が出てるので、博士だと来年度から給与が上がったり、より専門の部署へ配属してくれるかも？ かもしれません。
- ・ **折れない心で自信を持って就活を**：周りのみんなが一人残らず企業推薦で就活を終わらせていても、折れない心が必要。自由応募の民間就活も良い気づきが得られるので、両立して頑張ろう！/ 本当にその人の望むものは、絶対に手に入ると思っています。なので、自信を持って突き進んでください！/ 周りの意見を聞くことも必要ですが、自分の意見を大切にするとふれずに自信もって就活できると思います。/ 自分はかなり楽観的な性格なのでそこに救われたかなと思います。落ちたら運がなかったかマッチしなかっただけだと思えていたので緊張はあまりしませんでした。でも流石に人事課長と会う時は部屋の雰囲気も含めて緊張しなかったです。
- ・ **ラボ選びにご注意を**：修士卒で就職するつもりなら研究室選びに気をつけようね！！博士進学激推しラボだとしんどいことに、、、
- ・ **インターンやOB訪問に参加しよう**：インターンやOB訪問などの制度を全然利用しなかったことは、今となると後悔しています。選考に関係ないとは言われますが、会社の雰囲気を感じ取ったり面接で話すトピックが見つかったりと思うので、志望度が高い企業ならチャレンジすべきです。オンライン面接で部屋が暗く映るのが気になっていたのですが、Zoomの設定をいじることでだいぶ明るくなることに最近気が付きました。就活中に気づいていれば…。
- ・ **早めの対策が大事！**：早め早めにしておけばよかったと思うことがたくさん。

05

文部科学省に 決めた理由



他省庁と迷った理由 文部科学省に決めた理由

～事務系編～

01



【厚生労働省】

○迷った理由

- ・人の生き方に関わる仕事をしたかったから。
- ・子供の育つ環境を整えたいというのが就活の軸だったため。
- ・福祉や医療にも関心があったため。

○文部科学省を選んだ決め手

- ・自分の教育を取り巻く経験や原体験に立ち返り、一番やりたいのは教育行政だという意識を100%固めた上で、文科省に決めた。
- ・企画官に「子どもに学校という安心できる場所を提供するのがわたしたちの役目だと思っています」と言われたのが決め手でした。
- ・自分がこれまで教育学を勉強し、また研究してきた経験を活かしたいこと、またそもそも教育に関する仕事をしたいという初心を振り返ると、自分は文科省がっているのではないかと考えたため。
- ・文部科学省の方が未来を切り拓いていく力そのものを育てる役割を果たせると考えたから。
- ・人の未来の可能性を広げ伸ばす文部科学行政について考える楽しさや文部科学省の職員の方々の「人」の魅力に触れたことが最終的な決め手となりました。

【経済産業省】

02

○迷った理由

- ・業務の革新性や将来性に惹かれたため。

○文部科学省を選んだ決め手

- ・より幅広く長期的な視点で科学技術の振興にかかわれると思ったため。
- ・教育も人材投資で、ある種の「経済成長政策」であると職員の方に口説き落とされました。
- ・「10年後も自分が働いている姿」が想像できるのが文部科学省の方でした。

03

【財務省】

○迷った理由

- ・国家のランドデザインを描くというミッションに魅力を感じたため。

○文部科学省を選んだ決め手

- ・教育を通して「人」の未来をつくり、将来世代の発展に直接的に関われる仕事は文部科学省であると考えたため。
- ・最終は課題の深さ、ドメインの意義深さからこちらを選びました。

04

【総務省自治】

○迷った理由

- ・地方創生に関心があったため。

○文部科学省を選んだ決め手

- ・教育、科学技術、文化、スポーツのいずれの分野も地方創生にとって重要なものであり、文部科学省においても地方創生に関われると考えたため。

05

【その他文部科学省を選んだポイント】

- ・最後は職員さんの人柄や職場の雰囲気、同期になるであろう人の人柄で自分が長く頑張れそうな方に決めました。
- ・教育行政の専門性を生かせる場が文科省しかないから。
- ・自分が一番関わりたい行政分野は何か、こういった観点・分野から日本社会の問題に向き合いたいのか、自分の人生の長い時間をかけて向き合い続けたい仕事か、ということをよく考えて、文部科学省に決めました。



総合職以外と迷った理由 文部科学省に決めた理由

～事務系編～

06

【民間企業と迷った理由、決め手】

- ・私は、社会全体を支えるためのインフラ（形あるものないもの問わず）を提供する公務員と、社会全体を活性化させるインフラを提供する民間企業というような考えを持っていました。自身の今までの経験と照らし合わせた結果、公務員との親和性が高いと考え、絞りをかけました。
- ・お給料をはじめとした待遇面、ファーストキャリアとして民間企業の方が転職の幅が広がるのではないかと、思い迷いました。純粋に「世のため人のため」を貫ける仕事ができるのではないかと、国家の運営に携わる大きな責任とやりがいには変えられない経験ではないかと、これなら一生を賭けてもいいのではないかと、思える仕事に出会えたことが公務員にした決め手です。
- ・年収や福利厚生面で民間企業に惹かれた。国家公務員になることは長年抱いていた夢だったし、民間企業で働く自分の姿があまり想像できなかったのが公務員を選んだ。
- ・ワークライフバランス・転職の可能性から少し悩んだが、最終的には「自分がモチベーションに感じることは何か」で公務員という道を選びました。
- ・公共政策に関わるコンサルティング会社に内々定をいただいており、その会社とも迷ったが、やはり行政の場で政策立案から実行、その先の改善など、政策に関わる全てのプロセスに関わりたいため、省庁を選んだ。
- ・転職の際に文科省の経験がどの程度評価されるか読めなかったこと、給与が圧倒的に違うこと、福利厚生やオフィスの充実度、ビジネスへの興味の高さなどから迷いましたが、自分が一番興味のあるものは何だろう、と考えたときに文科省の政策領域だったので、この分野を一生考えていこう、と思いました。



【進学・研究者と迷った理由、決め手】

- ・学科の同期がほとんど院に進学することから進学と就職で迷いました。進学してから就職することも出来ましたが、院で研究することよりも文科省で働くことにワクワクしたので、今の自分の気持ちを優先して文科省に決めました。
- ・学問よりは実務を経験してみたいという考えがあったので、この点での迷いはありませんでした。

07

【他の公務員（国家一般職・地方上級・教職など）と迷った理由、決め手】

- ・最終的な決め手は、自分の人生の長い時間をかけて向き合い続けたい仕事か、どの仕事が自分にとって一番やりがいを感じられるか、文部科学行政に携わる立場・観点として自分はどこに一番適性があるか、ということでした。教育系を専攻している学生は特に、なぜ教員ではないのか、なぜ現場に近い仕事ではなく行政に携わりたいのか、なぜ地方ではなく国家公務員なのか、必ず問われると思います。国という大きな枠組みだからできること・やりたいことを明確にしておくことは、面接対策に役立つと思いますし、最終的な自分の判断の軸になると思います。
- ・教員である父との関わり合いを振り返る中で、国家機関に所属し教育現場をサポートすることで、最終的に自身の問題意識の解決につなげたいと考えていたため、当初から国家公務員中心に対策を進めていました。そのため、他の試験種との間で迷いは生じませんでした。
- ・裁判所事務官と迷いました。司法部門も国民生活に必要不可欠で、その仕事のやりがいや誇りは大きなものだと思います。ただ、私は、問題や紛争を事前に解決することができる行政的アプローチから仕事をしたいと思い、行政部門に進むことにしました。
- ・地元に貢献したいという思いと少し迷ったが、やはり日本全国に関わる業務内容に惹かれた。

08

01

02

03

04

05

06

07



他省庁と迷った理由 文部科学省に決めた理由

～技術系編～

01

【国土交通省】

○迷った理由

- ・次世代の技術に関する現実的な制度設計を直接行える点が魅力だった。

○文部科学省を選んだ決め手

- ・次世代技術を種や芽の時点から育てることに魅力を感じ、文科省に決めた。

【経済産業省】

○迷った理由

- ・科学技術の振興とその社会実装に興味があったため。
- ・科学技術政策を担う点で文部科学省と共通しているため。

○文部科学省を選んだ決め手

- ・基礎研究を振興できるのは文部科学省だけだと思った。
- ・社会実装はどちらの省庁でもできると思い、より幅広く長期的な視点で科学技術の振興にかかわれると思って文科省に決めた。
- ・最終的な決め手は2点です。1点目は宇宙、深海、原子力など大量の資源と資金を必要とする基礎研究に、大局的かつ長期的な視点からアプローチしていく文部科学省の業務がやはり一番したいことだと考えたからです。幼少のころから宇宙や素粒子などの科学の最先端にあこがれを持って育ってきた身として、その世界に関わる仕事で貢献することができればと思いました。2点目は職員の方や同期になりそうな方の人柄に触れて、より自分にあっているのは文部科学省だと思ったことです。文部科学省は穏やかで話しやすい方が多く、この人たちと一緒に仕事がしたいと強く思いました。どちらかというと文部科学省のほうに強く勧誘されたこともうれしかったですし、総合的に自分が必要とされている、輝ける職場は文部科学省であると確信できました。

02

【その他文部科学省を選んだポイント】

- ・文部科学省の職員さんの、挑戦的で、あたたかな人柄が決め手になりました。
- ・どんな部署に飛ばされても興味持って仕事できるかなと思ったのが文科省なので、文科省一択でした。
- ・自分のやりたいことを優先するか、自分の持つ技術、強みを活かすかで悩みましたがやりたいことやった方が長く続けられると思って文部科学省に決めました。

03

【コラム：内定後の動きについて】

4月の入省式までに、令和4年度の場合は、職員の方々主催で以下のイベントがありました。

- ①官庁訪問最終日に内々定→内々定式
- ②10月の内定式
- ③12月のゼロイチ会（一年目職員の方との懇談会、任意）
- ④1月の施設等機関見学（任意）

では、その間に内定者間ではどんなイベントがあるのでしょうか？

- ・合宿（2023年入省組は8月・12月※事務系と3月※事務系技術系合同に実施）
- ・内定式後のご飯会（10月）
- ・内定者パンフレット（本書）の作成（秋～冬）
- ・他省庁合同のフットサル大会（3月）
- ・勉強会（不定期で行い、2023年入省組は先輩職員をお呼びしてのレクを行いました）

また、こういった全体のイベントとは別に数人でのご飯会等も催され、コラム執筆者は地方で同じ大学に事務系内定者はいませんが、人と遊ぶのが好きなので他の内定者と月に2～3回は遊びにいらしています。地方出身者だからといって、疎外感を感じるような雰囲気ではないので、ご安心ください。

01

02

03

04

05

06

07



総合職以外と迷った理由 文部科学省に決めた理由

～技術系編～

04

【民間企業と迷った理由、決め手】

- ・研究開発を自分の手で行うことができないと思うと少し悲しいが、公務員として社会のために働いてみたいと思った。
- ・民間企業はメーカーから内定を頂いていました。もともと公務員が第一志望だったのであまり迷わなかったです。世界的な仕事が多いことは魅力に感じましたが、文部科学省でも海外勤務や留学などができると聞きましたし、自分自身の性格として利益を追い求める世界よりも国のためという大義を背負って長期的な視点をもって働く世界のほうが適合していると思いました。

05

【進学・研究者と迷った理由、決め手】

- ・博士課程卒業後、博物館学芸員として研究活動・教育活動をする道を考えていたが、文部科学省であれば、科学研究、教育、文化（博物館）のいずれにも貢献することができることに気づき、国家公務員を目指すことにした。
- ・理系として大学院に行かない、という選択は一筋縄ではいきませんでした。周りの友人は当たり前のように院に行きますし、自分としても身についた知識・スキルが半人前以下のままで社会に出ていくことに不安もたくさんあります。ただ一度大学院入試に失敗し、その勉強に熱意が入らなかった原因を考えたときに、自らの心の弱さもありますが、根本には自分の適性とエンジニアという進路の間に不一致があることは明らかでした。そのことにはうすうす気づいており、もともと大学院卒業後に国家公務員になることを漠然と考えていたので、大卒で文部科学省に入れるならそれが自分にとってベストだと方針を転換することができました。ろくに研究計画を立てたこともなければ、トライアンドエラーを繰り返しながら研究成果を実現したこともない、そう考えると大学院で得られるはずだった専門分野の知識以上に研究者としての経験を持っていないことが今後のディスアドバンテージになることは覚悟しています。ただ官庁訪問や採用担当官との面接で、政策的な思考力やスキルは入省後も獲得することができるので、大学院経験はマストではないという言葉を受け、最終的にこの時点で国家公務員になることにここから納得できました。普通の人がしていない回り道をしたことで、結果的に1年早く文部科学省に入省することになったので、人生はわからないものだと思います。大学3年、4年の人は、学卒で技術系総合職に入省することはまったくあり得る選択肢だということを分かったうえで、自分の将来を考える機会を早めに持つと人生が変わるかもしれません。

01

【他の公務員（国家一般職・地方上級・教職など）と迷った理由、決め手】

- ・転勤の頻度や残業時間で最後まで大変悩みました。最終的に、人生においてきっと良い経験になると信じ、官庁を選択しました。
- ・出身地の地方公務員は少し考えましたが、自分がしたい科学技術行政という分野を考えた場合、地方ではできることがどうしても限られていると思いました。専攻の関係からより理系的な機械職も検討しましたが、自分自身エンジニアリングにあまり自信がないことと、やはり政策立案・運用的な仕事をしなかったこともあって、国家公務員総合職に絞って受験しました。
- ・教員や学芸員として現場の最前線で働くか、政策立案や予算案の作成等の制度設計に携わるかで迷いました。決め手は官庁訪問を通して社会や国民全体の利益になるような仕事に就きたいとより強く思うようになったことでした。

06

02

03

04

05

06

07



0 6

内定者プロフィール



イニシャル

- ①事務系/施設系/技術系・○卒○区分
②○大学○学部（学科はお好みで）
③サークル・ボランティア
④座右の銘



○併願先・併願省庁

○志望動機

○文部科学省に抱いているイメージ

○文部科学省を目指す方へのメッセージ



I . M .

- ①事務系・大卒法律区分
②慶應義塾大学法学部政治学科
③テニスサークル
④初志貫徹

○併願先・併願省庁
厚生労働省・金融（民間）

○志望動機

教育を通じて貧困の連鎖の解消に貢献したいと考え、文部科学省を志望しました。貧困の連鎖を根本から解決するためには、給付金や物資支給などの物的支援を行うだけでなく、一人一人が自立して生きる力を身に着ける必要があると考えるようになりました。その手段として教育の重要性を意識するようになり今に至ります。

○文部科学省に抱いているイメージ

穏やかで優しい職員が多く、霞が関の中でも働きやすいような職場のイメージ。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

文部科学省というと教育のイメージが強いかもしれませんが、科学技術、文化、スポーツも所管範囲に含まれます。キャリアパスの多様性も文部科学省の魅力の一つです！興味を持ってくださった方は是非業務説明会などに足を運んでみてください😊



A . N .

- ①事務系・院卒人間科学区分
②東京大学大学院教育学研究科
③エレクトーンサークル
④大切なことは、目に見えない

○併願先・併願省庁

総務省地方自治、大学職員、国立大学法人、国家一般職

○志望動機

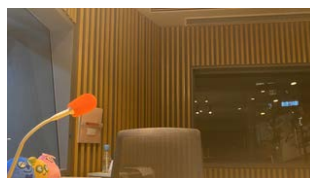
全ての人が、生まれ育った環境に左右されることなく、自分の意志で、自分の可能性を最大限開花させ、希望や目標を実現できるような社会を実現したいと考え、そのためには、長期的な視野での「未来に向けての人づくり」の役割を担う教育が重要だと考えたから。

○文部科学省に抱いているイメージ

年齢関係なく学ぶことや議論することが好きな方が多いイメージ。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

就職活動では、上手くいかなくて自信を失いそうになる時や周りとは比べ不安になる時もあるかもしれませんが、自分自身の選択肢を自分自身で見つけ選んでいくプロセスなので、自信を持って前向きに楽しんで取り組むことが大切だと思います！説明会等にも積極的に参加し、自分のやりたいことは何か、検討を深めてみてください！



I . J .

- ①事務系・院卒経済区分
②東京大学大学院公共政策
③特になし
④常在戦場

○併願先・併願省庁
財務省・経産省

○志望動機

ソフトパワーを通して日本の将来を長期スパンで構造設計することを志しており、それに直結する場所であるから。高等教育・科学技術領域に特に興味関心があり、日本の人材・技術が世界を席卷する時代を作るための役割を果たしたいと考えています。

○文部科学省に抱いているイメージ

未来志向の人材が多い。制度を所管している分、距離を感じる場合もある。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

文字通り未来を創る省庁だと思います。一人一人思い入れがありその全体の制度を作っている分、様々な葛藤を抱えながら向き合うこともあります。自分自身が一生このドメインに向き合う覚悟と矜持を言語化し、腹落ちするまで考え抜いてください！



U. S.

- ①事務系・大卒法律区分
②明治大学法学部法律学科
③体育会日本拳法部
④教養は人生に於ける戦いである

○併願先・併願省庁
政府系金融機関・法務省・人事院

○志望動機

高校教師である父親の話と、アルバイト先の個別指導塾での経験から、格差というものを身近なまでに感じ、意識するようになりました。この課題に対し、教育を通じて多面的にアプローチすることが可能であると考えたため、文部科学省を志望しました。

○文部科学省に抱いているイメージ

職員の方一人ひとりが自己研鑽に励み、独自の教育等に対する意見を有しているというイメージ。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

「教育」は誰もが受けてきたものです。そのため、自身の意見を形成し易い一方で、他者の意見との折衝に四苦八苦することもあります。このように、文部科学省は一筋縄ではいかない分野を所管としますが、であるからこそ、大きなやりがいと可能性を求めることができますと思います。皆さんの成功を心からお祈り申し上げます。



K. K.

- ①事務系・院卒人間科学区分
②東京大学教育学研究科学学校開発政策コース
③硬式野球
④なし

○併願先・併願省庁
コンサル、金融

○志望動機

公教育はその効果の多くが広く長く可能性が高く、科学技術も不可逆的に人類の生活を改善しうるからこそ、文科政策を安定的に運営し改善・改良し続けることは、数年後、数十年後の社会を良くしていく活動にほかならないと思っており、自分はそうしたより良い社会を作り上げるために働きたかったから。

○文部科学省に抱いているイメージ

職員の方々、内定者の方々、お会いする方みなさん人柄が良く、雰囲気の良い組織という印象です。

○文科省は、教育問題はもちろんながら、貧困、経済の停滞、犯罪、紛争、地方衰退、少子化、事故・病気、労働問題、消費問題、環境問題などなどの多様な社会問題に対処療法的な施策ではなく根源的な解決を目指す省庁だと考えています。教育に限らず社会を視座高く広く見つめて、教育に何ができるか、一緒に考えましょう！



O. N.

- ①事務系・大卒教養区分
②東京大学法学部
③法律相談所、テニスサークル
④明けない夜はない！

○併願先・併願省庁
厚生労働省、財務省、政府系金融、メガバンク

○志望動機

多様な人格を尊重できる教育環境の構築を通して、個々の特性が尊重され、それが活かされる社会構造を作りたいと思ったからです。自身の不登校経験とフリースクールでのボランティア活動を通して、教育が個性排斥の装置とならない社会を目指したいと思い志望しました。

○文部科学省に抱いているイメージ

職員さんが情熱的で優しい！

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

学生のうちに、様々な教育現場に赴いて、自分の目でその実情を見てみると良いかもしれません。中央省庁は、教育委員会などの地方の行政組織を通して政策を実施することが多く、現場との距離が遠くなってしまうことがあります。時間のある学生のうちに現場を見た経験はきっと今後に役立つと思いますので、是非オススメです！



K. A.

- ①事務系・大卒教養区分
②京都大学 農学部応用生命科学科
③オーケストラ
④楽あれば苦あり

○併願先・併願省庁
内閣府

○志望動機

教育を主軸に「誰もが人生の充実を追い求められる社会」の実現に貢献したいと考え、文部科学省を志望しました。理想とする社会の実現には主体性やそれを発揮できる環境が必要であり、学校教育を通して児童生徒の主体性を醸成し、生涯学習の普及、推進によって主体性が発揮できる環境の整備に取り組みたいと考えました。

○文部科学省に抱いているイメージ

気さくな人が多いイメージ。所掌する分野が広いためか、好奇心旺盛な人も多いイメージ。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

文部科学省を志望する中で、将来の目標となる職員の方々に沢山出会いました。内定者同士で話していてもとても居心地が良く、ここでならば頑張っていけそうだと感じています。文科省の持つ雰囲気に触れ、文科省で働く「人」を知ることによって、皆さんにとって満足のできる進路選択となることを願っています。



K. K.

- ①事務系・大卒法律区分
②東北大学法学部法学科
③ボディビル部
④なし

○併願先・併願省庁
財務省・総務省・政府系金融機関

○志望動機

「環境に左右されず、誰もが希望を抱き安心と豊かさ
を享受できる社会」を実現したいと考え志望しまし
た。文部科学省では、教育のみならず、文化、スポー
ツ、科学技術といった人間の可能性を広げることので
きる分野に携わることができ、経済的意味に留まらな
い豊かさを追求することができると考えたためです。

○文部科学省に抱いているイメージ
温かい性格の方が多かったです。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

「情熱をロジカルに伝えよ。」
官庁訪問中、文部科学省の職員の方に頂いた言葉が印
象に残っているため皆さんに共有したいと思います。
官庁訪問にとどまらず、就職活動において非常に重要
な言葉だと思います。自分らしさを前面にだし、落ち
着いて臨めばきっと上手くいくはずです。



S. A.

- ①事務系・大卒法律区分
②大阪大学法学部国際公共政策学科
③学生委員会・模擬国連神戸研究会
④禍福は糾える縄の如し

○併願先・併願省庁
政府系金融、経済産業省、厚生労働省

○志望動機

日本では私の地域的要因や、当時の社会事情のために潜
在能力を十分に発揮できていない人がいることへの問題
意識から、学びの可能性を増やすことの重要性を学びま
した。国内全体で遍く自らが望む環境・タイミングで個
別最適な学習ができるように、システム面からこの国の
教育制度を支えたいと思い、志望しました。

○文部科学省に抱いているイメージ
真面目で優しい人が多いイメージ。
科学技術系と教育文化系は少し趣が違う。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

文部科学省の内定者・職員の方と話していると、その知
識の深さ、高い思考力や温かい心根に感動します。今ま
で政策についてあまり語り合える友人などがいなかった
ので、勉強会や官庁訪問等で仮説について議論できるの
が本当に楽しいです。文部科学省を志望するにあたり、
正直なところ悩みましたが、今は後悔しておりません。
どうぞ、後悔のない進路選択ができますように。



S. A.

- ①事務系・大卒法律区分
②早稲田大学法学部
③法律サークル
④明日できることは明日やる

○併願先・併願省庁
厚生労働省

○志望動機

大学に入ってから教育格差に興味を持ち、子供の育つ環
境を整えたいと思ったのがきっかけです。民間や現場で
働く選択肢があった中で国家公務員は国の制度の根幹に
かわりうまうまければ社会を変えられると思い志望しま
した。

○文部科学省に抱いているイメージ
仲が良い印象があります。そのおかげでチームワークが
良く協力して物事を成し遂げているイメージです。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

文部科学省に入るまではすごく長い道のりだと思いま
す。勉強の日々に自分を見失うこともあると思います。
そのたびに自分がなんで目指すことになったのかという
原点に帰って自信をもって前に進んでください。一緒に
働ける日々を楽しみにしています！



S. M.

- ①院卒・行政区分
②京都大学公共政策大学院
③公共政策インゼミ実行委員会
④やらない後悔よりやってみて反省

○併願先・併願省庁
シンクタンク・厚労省

○志望動機

「一人ひとりが自分らしく生きられる社会」の実現に貢
献したいと思い志望しました。学生時代のボランティア
活動を通じて、家庭環境に左右されない教育機会の保障
に関わる制度づくりに関心を抱きました。文部科学省の
職員として、すべての人が生活への不安なく自己実現を
叶えられるような政策を実現したいと思います。

○文部科学省に抱いているイメージ
人があたたかい。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

就職活動では、悩んだり落ち込んだりすることもたくさ
んあると思います。他方で、自分とじっくり向き合う重
要な機会でもあるので、視野を広く持って、様々な可能
性について考えることがよりよい進路選択につながるの
ではないでしょうか。もし、文部科学省に少しでも興味
を持たれたら、ぜひ門を叩いてみてください。



S. R.

- ①事務系・大卒教養区分
②東京大学教育学部教育実践・政策学コース
③教育系NPO・学校ボランティア
④知は恐怖の解毒剤

○併願先・併願省庁
厚生労働省、日系コンサル、教育業界

○志望動機

元々教育や教育行政には漠然とした関心があった。そんな中、大学で学んだ教育行政の視点、塾講師や学校ボランティアで経験した教授者側の視点、そして自分自身の被教育経験などを省みた時に、子どもたちの学びをより良くするため、行政官としてしかできないような公教育の課題解決に携わりたいという思いを強めた。

○文部科学省に抱いているイメージ

日本における公教育の重要性を体現したような組織。理知的かつ情熱的な職員の方が多い。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

例えば「〇〇教育が大切です」、「△△という政策の推進が必要です」といった言説があるとします。文科省を志す人に重要なのは、そういう言説が盲目的に支持することではなく、「そもそもどうしてそれが大切なのか」、「それを実現する上でどんな課題があり、どう解決するのか」といった批判的検討の視点だと思います。



T. M.

- ①事務系・院卒行政区分
②九州大学人間環境学府教育システム専攻
③なし
④至誠業勵・剛健風成・操守堅固

○併願先・併願省庁
厚労省、国交省、コンサル

○志望動機

多様な背景を持つ全ての人の自己実現や自由な挑戦が可能な社会を実現したいと考え、志望しました。学校インターンシップの経験から、経済支援のみならず理解度の担保といった学習面での支援も重要であると強く実感しました。個別最適な学びの実現により、誰もが、自身の可能性を開花させることを可能にしたいです。

○文部科学省に抱いているイメージ

優しく、強い熱意を持って働かれている方が多い。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

日本が直面する社会問題や、資源に限られる日本での「人」の重要性を考えたときに、文部科学省の担う役割は非常に大きなものだと思います。私は、「人」をテーマに社会の基盤作りや人々の幸福・自己実現に貢献できる文部科学省の仕事に強く魅力を感じました。是非、文部科学省に興味を持って頂けると嬉しいです。



N. S.

- ①事務系・大卒経済区分
②慶應義塾大学・商学部
③児童ボランティアサークル
④大賢は愚なるが如し

○併願先・併願省庁
人事院・海運

○志望動機

全ての子どもたちのために働くことができると考えたから。また、一人ひとりの力がより求められる時代において、教育が果たす役割はさらに大きくなり、文部科学省の責務がさらに大きくなる点にやりがいを感じられると考えたから。

○文部科学省に抱いているイメージ
真面目、温和。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

文部科学省が所掌する教育、科学技術・学術、文化、スポーツはいずれも人にとって欠かせない分野である一方で、まだまだ課題が山積しています。日本の未来、人の心をより豊かにしたいと思う方をお待ちしております。



N. Y.

- ①事務系・大卒法律区分
②東京大学法学部第一類
③東京大学運動会ラグビー部
④「雨の中でも踊ることが人生なのです」

○併願先・併願省庁
厚生労働省（・日系金融機関）

○志望動機

子ども一人ひとりがその個性や境遇により選択肢を制限されず、自分らしく学び成長する機会を保障したいと考え文部科学省を志望しました。関心分野としては、不登校児童・生徒への対応や、令和の日本型学校教育における個別最適な学びと協働的な学びの推進、教員の資質能力向上に不可欠である教員の働き方改革を挙げました。

○文部科学省に抱いているイメージ

訪問前：教育政策に詳しい学生しか採用されないイメージ→訪問後：文部科学行政への思いを伝えれば大丈夫！

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

文部科学省の職員の方は、優しく熱く思いやりのある方々ばかりです。業務説明会や職員訪問に積極的に参加し、是非色々なお話を聞いてみてください。官庁訪問までの期間は忙しく大変ですが、職員の方々や同期との沢山の出会いがある充実した時間であるとも言えます。皆さんが後悔のない進路選択ができるよう応援しています！



H. S.

- ①事務系・大卒教養区分
- ②横浜国立大学・経済学部
- ③フライングディスク部
- ④選んだ道を正解にする

○併願先・併願省庁
厚生労働省、内閣府、東京都

○志望動機

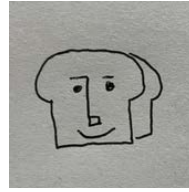
「誰もが主体的に選択できる社会」を実現したいため。進路選択の際に人によって選択肢の幅に差があることに問題意識を感じていた。教育を施すことで、個人の能力を最大限引き出すことができ、それが選択肢を広げることにつながると思っている。

○文部科学省に抱いているイメージ

学校や教育委員会など、多様なセクターが存在するため、現場との協力を重視している。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

私自身、教育に携わることは数十年後の未来を作ることだと思っています。誰もが通る義務教育を常にアップデートし続けることで、個人としての人格、能力の成長、さらに社会全体の発展に繋がります。そんな未来を作る省庁で、共に働く仲間になってくれるとうれしいです。



H. Y.

- ①事務系・大卒法律区分
- ②早稲田大学・法学部
- ③合唱サークル
- ④無理しない

○併願先・併願省庁
裁判所職員、国立国会図書館

○志望動機

文化に関わるお仕事をしたかったから。

○文部科学省に抱いているイメージ

教育分野を所掌しているからか、全体的に穏やかな人が多いイメージです。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

まだまだ私も文部科学省のことはよく知りませんが、職員さんとたくさん話してみても、ここで働きたいなと思えて、働かせていただけるような気がしてきたら、文部科学省がいいと思います。



F. K.

- ①事務系・大卒法律区分
- ②北海道大学法学部
- ③入ってませんでした
- ④人間万事塞翁が馬

○併願先・併願省庁
環境省・内閣府・都庁・国家一般職

○志望動機

より多くの人が、ワクワクするものや新しいものにたくさん出会って、自分なりの生きがいを見つけて楽しく生きて欲しいと思っています。そして、それを実現できるのは、公教育ではないかと考えました。学ぶことそれ自体の価値を守り、またその楽しさをたくさんの人に実感してもらいたいと思い、文部科学省を志望しました。

○文部科学省に抱いているイメージ

柔らかい雰囲気。
表では見えにくいですが、皆熱いハートを持っている！

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

教育に限らず、文部科学省の所掌分野は、人生を豊かにする鍵を握るものばかりです。その価値を守りたい、提供し続けたいという思いがある人はぜひ説明会等に参加してみたいと思います。就活しながらいろんな人や価値観に出会い、いろんな感情を味わうと思いますが、是非その一つ一つを大切にしたいです！



F. K.

- ①事務系・院卒人間科学区分
- ②東京大学大学院教育学研究科
- ③なし
- ④ギリギリでいつも生きていたい

○併願先・併願省庁
夜間定時制教員（勤務中）

○志望動機

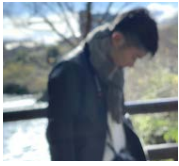
小学校・中学校を不登校として過ごし、高校を夜間定時制に通った経験を踏まえて、大学院で不登校と定時制の研究を行なった後は教員として夜間定時制の世界に戻りました。初めての卒業生を送り出すにいたり、教育現場を教育行政の視点から見る必要を感じ文科省を受けました。

○文部科学省に抱いているイメージ

日本で教育行政の仕事に携われる数少ない職場の一つ

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

学校現場と教育行政の距離の遠さは、文科省に入れなかったからといって教員志望に切り替える人間も、教員になれなかったからといって文科省志望に切り替える人間も、どちらもいない現実的に現れています。教員を経験してから文科省に行く選択肢も（その逆も）当然あり得ることをぜひ意識してみてください。



M. T.

- ①事務系・大卒教養区分
- ②中央大学法学部政治学科
- ③国際法／国際政治研究会
- ④幸運は準備された心に降り立つ

○併願先・併願省庁
総務省（行政管理・評価）、内閣府

○志望動機

これまでの学生生活を通して、自ら気づきを得ることの重要性を学びました。そこで、成功も失敗も積める可能性が広がる教育、科学技術、文化、スポーツを支える文部科学行政（気づきの機会を生み出す行政）に携わり、「誰もが自己実現に向けて、主体的に生きられる社会」を築きたいと考えました。

○文部科学省に抱いているイメージ

自分の話を丁寧に聴いてくれる＋あたったかいアドバイスを下さる方が多い

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

あらゆる出来事が一つずつ繋がって今の私がある、と就活を終えて強く感じています。目の前の課題を明確にすること、それらを一つひとつ丁寧に解決していくことが、その後の良い結果につながると思います。みなさんが納得のいくまで努力を続けられること、そしてその努力が実を結ぶことを心から願っています。



Y. S.

- ①事務系・大卒法律区分
- ②京都大学法学部
- ③体育会アメリカンフットボール部
- ④勝って兜の緒を締めよ

○併願先・併願省庁
警察庁/国税庁/裁判所事務官総合職/国家一般職

○志望動機

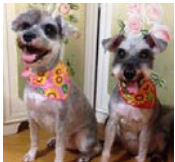
この国で暮らす「困っている人」を一人でも少なくしたいと考える中、人が自分の力で生きていく原点である教育に携わることでより多くの「困っている人」を減らすと同時に将来の「困る人」を減らせるのではないかと思います。また、教育・科学技術・スポーツ・文化の各分野で頑張る人の力になりたいと思い、志望しました。

○文部科学省に抱いているイメージ

・明るく前向きな人が多いイメージ
・「我が国の未来を創る」←カッコいい、、、

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

皆さんは今まさに夢や目標に向かって努力され、それが本気であればあるほど大きな不安を抱えていることと思います。不安な時こそ、皆さんの近くの職員の方々に頼っていただき、そして、「人を育てる」文部科学省に魅力を感じ、最後まで志望していただければと思います。皆さんと文部科学省で会える日を楽しみにしています。



S. Y.

- ①技術系・院卒化学・生物・薬学区分
- ②東京大学・新領域創成科学研究科
- ③講演サークル・国際ボランティア
- ④七転び八起き

○併願先・併願省庁
なし

○志望動機

文部科学省の政策により幅広い経験を私は積むことができたので、日本の未来を司る子供達だけでなく、成人や高齢になっても多岐にわたり学べ、自己実現できる機会を国民に提供したく志望しました。海外では当たり前になっている博士人材の活躍を応援し、日本の科学技術力・研究力向上に貢献したいです。

○文部科学省に抱いているイメージ

全ての日本国民が平等に学べる機会を得られるように邁進している機関。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

文科省は努力・熱意・成長を評価してくれる組織なので、ぜひ熱い思いをぶつけてください。そのためには学生時代に幅広い経験を積んで自身の可能性を広げてください。その時に努力した経験は、別の形になったとしても必ずこの省庁で役立つと考えます。



S. M.

- ①技術系・院卒化学・生物・薬学区分
- ②東京工業大学生命理工学院
- ③中学校放課後学習補助
- ④未来はもっと眩しい

○併願先・併願省庁
地方公務員

○志望動機

日々の研究活動をしているうちに、解決したい課題が見つかりました。その1つに、全国的な研究環境の整備です。特に地方大学は機器の老朽化が進んでいるものの、限られた財源の中で最新の研究機器の導入が難しいのが現状です。このような様々な課題の解決を目指し、研究者を応援したいと思い志望しました。

○文部科学省に抱いているイメージ

熱意があり、風通しの良いイメージです。優しい人が多い印象もあります。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

教育・科学技術・スポーツ・文化といった文部科学省で取り組んでいる課題は、幅広いバックグラウンドの方に馴染みがあると思います。もし興味あることが、文部科学省で実現できるのであれば、ぜひ挑戦してみてください。皆さんが、自分のやりたいことを見つけられることを願っております。



K. S.

- ①技術系・院卒森林・自然環境区分
- ②東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻
- ③生物同好会
- ④七転び八起き

○併願先・併願省庁
経済産業省

○志望動機

科学に関心のある学生や若手研究者が、安心して研究の道を進める未来を創りたいと思い、文部科学省を志望しました。入省後は教育のアプローチから科学に興味を持つ子どもを増やし、科学政策により博士課程進学の障壁をなくし、幅広い研究分野で雇用の場を確保する仕組みを整備したいです。

○文部科学省に抱いているイメージ

真面目で前向きな方が多いイメージがあります。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

学生生活の中で少しでも興味があることがあれば、積極的にチャレンジしてみてください。積み重ねた経験は、文部科学省の国家公務員として何がしたいのかを考える材料になると思います。頑張ってください！応援しています。



S. Y.

- ①技術系・院卒人間科学区分
- ②同志社大学大学院脳科学研究科
- ③茶道・水泳
- ④MECE（モレなくダブリなく）

○併願先・併願省庁
大学教員、大学URA

○志望動機

研究者の立場だとどうしても自分の研究テーマに関連した狭い範囲で研究を推し進めることになるけれど、自分をもっと広く俯瞰的にマクロで全体を眺めて考えることが好きなので、研究や教育に関してそれが可能？そんな文科省が良いなと思ったため。また、自分の力次第でたくさんの人を幸せにできるこの職が素敵だと思うため。

○文部科学省に抱いているイメージ

すべての官公庁の中で恐らく一番、博士号取得者に対してフレンドリー

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

（特に）博士課程に迷い込んでしまったみなさん、修了後のポストが見つからない際にはぜひ文科省へ！アカデミア外ではまだまだ博士修了者が「博士」として活かされる機会と就職先が少なく人生ハードモードな現状ですが、博士へのリスペクト満載な文科省なら救ってくれるかもしれませんし、一緒に後輩を救いましょう。



K. Y.

- ①施設系・大卒工学区分
- ②慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科
- ③教育支援のボランティア
- ④初志貫徹

○併願先・併願省庁
防衛省、国土交通省

○志望動機

学生時代は理工学部で勉強しながら、教育系のボランティア活動をしていました。ボランティア活動で抱いた問題意識を建築のアプローチで解決できるのが文部科学省でした。今までの経験を活かして業務に携わることができたため、文部科学省を志望しました。

○文部科学省に抱いているイメージ

職員同士の仲が良く、職員の皆さんが協力しあってプロジェクトを進めている印象があります。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

日本を取り巻く環境は大きな変革期にあり、文科行政のあり方も問われています。困難な時代だからこそ、日本の“未来”をつくる文部科学省の存在は大変重要です。文部科学省で、皆さんと一緒に日本の将来を考えることを楽しみにしています。



I. W.

- ①技術系・大卒工学区分
- ②東京大学工学部航空宇宙工学科
- ③模擬国連駒場研究会、クイズ
- ④実るほど頭を垂れる稲穂かな

○併願先・併願省庁
経済産業省、国土交通省、商社、メーカー

○志望動機

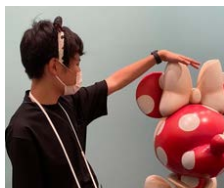
自分にエンジニアとしての適性が無いと気づいたことで、理系としての素養を活かしながらジェネラリストとして課題解決に取り組むことが私の本当にやりたい仕事だと気づきました。科学・技術政策に携わることですベシャリストたちの活躍を下支えすることに大変魅力を感じたため、文部科学省を志望しました。

○文部科学省に抱いているイメージ

未来を志向する省庁ということで、長期的なビジョンをととても大切にしている点が素晴らしいと思います。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

文部科学省では技術系職員も技官ではなく政策立案に携わる事務官として働ける点がキャリアの魅力だと思います。科学の振興とイノベーションを通して日本の未来を切り拓きたい、私と同じ志を持っている方はぜひ一緒に政策を語り合いましょう！一足先に合同庁舎7号館で待っています！



T. N.

- ①技術系・院卒工学区分
- ②東京大学大学院
新領域創成科学研究科物質系専攻
- ③クラシックギターサークル
- ④これもまた過ぎ去る

○併願先・併願省庁
厚生労働省、環境省

○志望動機

研究職に就いている方や研究に意欲的な大学同期と接するなかで、研究は実際に研究を進める人だけでなく、研究する人を支える立場の人がいて成立するものであり、将来支えることに携わりたいと考えておりました。業務説明を聞く中で、文部科学省の業務の一つの大きな軸として研究支援があると感じ、志望しました。

○文部科学省に抱いているイメージ

真面目で接しやすい方が多いイメージがあります。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

自分は最後まで併願先と志望を迷っていました。最後は本当に自分の興味があることは何なのかを改めて考えて、決断をし、今まで後悔を感じたことはありません。皆様もぜひ色々な企業や省庁の説明を聞いてみて、本当に自分がやりたいことはどういうことかを早いうちに考えておくといいのかなと考えています。



T. J.

- ①技術系・院卒森林・自然環境区分
- ②同志社大学生命医科学研究科
医生命システム専攻
- ③軽音楽部
- ④失敗は成功のもと

○併願先・併願省庁
環境省・林野庁

○志望動機

人と科学の発展を通して、それぞれが生きやすく輝ける日本を創造したいと思ったからです。説明会で話されていた職員の方や内定者の方をカッコいいと思ったのがきっかけです。様々な分野に携わることができ、自分の学んだことや経験を活かすことができると思いました。

○文部科学省に抱いているイメージ

静かに情熱を燃やしているイメージです。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

試験勉強や面接対策お疲れ様です。「できる！」と自分を信じて、頑張ってください。上手くいかないかもと思った時に、私は自分に言い聞かせてました。面接は、今までの経験全てがアピールになると思うので、素の自分で臨んでください。応援しています！



N. S.

- ①技術系・院卒工学区分
- ②大阪大学工学研究科マテリアル科学科
- ③水泳・筋トレ
- ④人間万事塞翁が馬

○併願先・併願省庁
国土交通省・完成車メーカー

○志望動機

日本の科学技術を取り巻く環境や将来について長期的な視点から考え、課題解決に取り組むことが出来る唯一無二の官庁だと思ったため。文科省であれば、イノベーションの源泉である大学と研究者をサポートし、数十年から数百年後に役立つかもしれない研究を守り、未来につなげていくことが出来ると思った。

○文部科学省に抱いているイメージ

院卒や博士卒、社会人経験者など様々なバックグラウンドを持った方が多い。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

私は直前で志望官庁を変更し、採用していただきました。官庁訪問で職員の方々とお話し、心の底から「ここで働きたい！」と思ったことが理由です。百聞は一見にしかず、是非、職員訪問や官庁訪問で職員の方々と議論をしてみてください。



H. S.

- ①技術系・大卒数理学・物理・地球科学区分
- ②慶應義塾大学大学院理工学研究科
基礎理工学専攻物理学専修
- ③陶芸(学部1年生のときのみ)
- ④未来と自分は変えられる

○併願先・併願省庁
総務省・国土交通省・地方公務員

○志望動機

教育に興味があり、学部生のときに教職課程を履修していました。その中で、教育にも色々な関わり方があると分かり、自分は制度や環境整備といった教育の基盤に関わる仕事に就きたいと思い、文部科学省を志望しました。また、大学院に進学して研究していく中で、研究環境の改善についても興味を持ちました。

○文部科学省に抱いているイメージ

教育、科学技術といった幅広い分野で、自分の理想を持った方々が未来を創る仕事をしている場所。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

官庁訪問で職員の方々の話を聞いて、文部科学省では「人」に向き合って未来を創造しているというのがよく分かり、自分にとって理想の仕事だと思いました。文部科学省でどのような仕事をしたいか考えながら、就活頑張ってください！



H. M.

- ①技術系・院卒化学・生物・薬学区分
②北海道大学大学院総合化学院総合化学専攻
③よさこいソーラン、野球
④窮すれば通ず

○併願先・併願省庁
高校教諭、学芸員、環境省、厚生労働省

○志望動機

私の周囲には博士課程を経て研究者になることを夢見ていたが、修士課程において研究に対する意欲が大きく低下し進学を避けた人が多くいました。このような背景の下、積極的に研究者を目指せるような環境にしていきたいと考え、大学院の教育・研究環境の改善という視点に立った政策立案に携わりたいと思い志望いたしました。

○文部科学省に抱いているイメージ
人を大切にできる人が多い気がします。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

官庁訪問対策時に調べれば調べるほど面白い仕事だな、と思った記憶があります。試験・官庁訪問対策と肩肘張らずに知的好奇心を満たしながら調べていけると苦痛を感じずに楽しみながら就活できると思います。研究や学業との両立は大変だと思いますが、納得のいく就活ができるよう応援しています。



Y. Y.

- ①技術系・院卒化学生物薬学区分
②東京大学大学院新領域創成科学研究科
③なし
④人生は遊行

○併願先・併願省庁
経済産業省

○志望動機

科学を幅広く見渡しながら科学技術の振興に貢献したいと考えました。長期的な研究開発の方向性を考え、研究の融合に寄与したいと思っています。また、技術の社会実装と人材育成にも関心があり、文科省を志望しました。

○文部科学省に抱いているイメージ
成果が出るまでに時間がかかる政策が多く、長期的な視点を持って取り組んでいるイメージ。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

官庁訪問時の印象ですが、さまざまなバックボーンを持った人材を求めているように思いました。分野に関係なく、文科省でやりたいことがあれば受け入れてもらえるはずです。



M. H.

- ①技術系・院卒数理学・物理・地球科学区分
②京都大学大学院生命科学科学研究科
高次生命科学専攻
③マジックサークル・天文同好会
④人間万事塞翁が馬

○併願先・併願省庁
経済産業省・外資コンサル

○志望動機

私は幼い頃から科学が好きです。科学が最も私の知的好奇心を燃やすものだからです。だからこそ今の日本の科学力低下を心から憂えています。私が大学院に至るまでに培った広範な科学への学びを活かし、多様な研究者の声を行政に届けることで、日本を科学技術立国として再興すべく文部科学省を志望しました。

○文部科学省に抱いているイメージ

科学技術の新たな芽吹きを促す省庁。熱い想いを抱えながらも冷静沈着・論理的な人が多いイメージ。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

説明会にたくさん参加してください。そして、色々な方とお話してみてください。各省庁で面白いくらい職員さんの人柄が異なりますので、その中で自分と合う省庁を見つけれたら良いと思います。私の場合は業務内容に惹かれたのはもちろんですが、職員さんの人柄に惹かれて入省を決めました。良い出会いがありますように。



Y. K.

- ①技術系・院卒数理学・物理・地球科学区分
②東京工業大学大学院理学院物理学系
③バドミントン
④みんな違ってみんないい

○併願先・併願省庁
環境省、気象庁

○志望動機

日本の研究力を向上させるためには博士人材の有効的な活用が求められますが、アカデミアの門は狭く、通常の就職活動も難しいのが現状だと思います。この要因には研究費等の支援の少なさや修士・博士課程の学生に対する教員の指導力の低さがあると思い、これらを統括的に取り組むことができると思い志望しました。

○文部科学省に抱いているイメージ

話すことが好きで人と共同して取り組むことに対してエネルギー的なイメージがあります。

○文部科学省を目指す方へのメッセージ

文部科学省は省内に教育・科学技術・文化・スポーツと幅広い分野を所掌していてそのうちのどれかに興味があって志望されていると思います。今後も就職活動を続ける中でぜひ他の分野についても覗いてみてください！入省したらさまざまな部署に行くことになりますし、思いもしない関連性や取り組みがあるかもしれません。

07

インタビュー



教職免許取得者
地方大学出身者
留学経験者
博士号取得者
内定者全員



教職免許取得者との対談

Q 教職課程を履修したきっかけを教えてください！

K.S.さん：身近な存在だった教師という職業について詳しく知りたかったからです。また、理系学生の自分にとって、研究内容を的確に伝える能力は今後重要になると思い、教職課程を通して人に分かりやすく伝える技術を身につけようと思いました。

H.S.さん：将来のため、資格が欲しかったのがきっかけです。漠然と教育に興味があり、これまでの教育を受ける側の視点を活かしながら、次は教育をする側の視点で教育について考えてみたいと思い、教員免許を取得を目指しました。

A.N.さん：大学・大学院で教育行政と学校経営を専攻してきましたが、教育政策について考えるには行政の視点のみならず現場の視点から政策実施を検討することも極めて重要だと考えたためです。個人的には学校という場がずっと好きで、教員という仕事も憧れの対象で、教育に携わる仕事をしたいという思いが以前からありました。

S.M.さん：高校の尊敬する先生のようになりたいという思いと、教育を通して未来づくりをしてみたいと思い、取得しようと思ったのがきっかけです。

Y.K.さん：高校時代の担任の授業がとても楽しく、同じように学生に魅力を伝えたいなと思ったのがきっかけです。また、教育というものを通して人に伝える技術を学びたいなと思いました。

F.K.さん：定時制高校の教員になろうと思ったため教員免許を取得しました。

Q 教員を選ばなかった理由、教員から転職する理由を教えてください！

K.S.さん：初めから教師は第1志望ではありませんでした。しかし、教職課程の中で理科嫌いの学生の多さに気づき、どうしたら科学に興味を持ってもらえるのかを考えるきっかけになりました。

H.S.さん：上の方と同じく、私も教師を志望してはいませんでした。

A.N.さん：一人の教員として生涯に関わるのでできる子どもの数は限られているのに対して、教育行政の仕事に関わることでできる範囲は、人数の上でも（影響を及ぼす）期間の上でもとても広く大きいと考えたためです。

S.M.さん：初めは教員が第一志望ではありませんでしたが、教育の勉強をしていくうちに、非常に興味がわきました。やってみたい仕事がたくさんあり、ファーストキャリアに教員ではなく、違う職業を選びました。

Y.K.さん：研究室に進学していく中でより研究に近い所で仕事をしたいと思いました。ただ、科学や数学をどうしたら好きになってもらえるようになるか、研究者ができることは何かと考えるようになりました。

F.K.さん：私自身が定時制の卒業生であるため大学院修了後に定時制の教員になる道を選びましたが、初めての卒業生を送り出し、いつまで経っても抜本的な教員の働き方改革が進展しない理由を、教育現場からではなく教育行政の立場から見てみたいと思ったため転職を決めました。

01

02

03

04

05

06

07



Q 文部科学省を志望した理由を教えてください！

K.S.さん：教職課程の履修から、科学が好きな学生を増やすための科学教育について興味を持ちました。文部科学省を志望した1番の理由は他にあるのですが、科学教育に関わることが出来ることも志望理由の一つになりました。

A.N.さん：全ての人が自分の意志で自分の可能性を最大限開花させ希望や目標を叶えられるような社会を実現するために必要な基盤を作り支える仕事に携わりたいと考えました。特に長期的な視野での未来に向けての人づくりの役割を担う教育というアプローチが重要だと感じ関心を持ちました。

H.S.さん：教職課程の授業を通して、教育への関わり方、視点というのは様々であると学びました。その中で、自分がしたいことは、教育の基盤を整えることで現場を支えることだと思い、文部科学省を志望しました。また、大学院まで進学する中で、研究環境の改善や研究力の向上にも興味を持っていました。そのため、文部科学省は自分の興味のある仕事がすべてできる場所だと思っています。

Y.K.さん：博士課程人材の活用や基礎研究振興が第一の理由ですが、最先端をいく研究者と一般の方との間の溝の広がりを感じていてその溝を小さくするための科学教育や高大連携に関わりたいと思って志望しました。

S.M.さん：教職課程の授業では、現在の教育や学校現場の課題を学び、自らが教員として働くことではこれらはあまりにもスケールが大きく、解決できないと考えるようになりました。また研究を始めるうちに、科学に触れることの喜びも感じており、これから先の科学の発展に貢献したいという思いも持つようになり、行政の立場からこれらに関われる職を選びました。

F.K.さん：もともと大学院では教育行政を専攻していたため、教育行政の仕事には最初から関心がありました。しかし、日本では教育行政を専門的に直接仕事に活かせる場は残念ながら非常に限られています。学校現場と教育行政の距離が遠いと言われている中で、教員経験の中で培った問題意識を教育行政と絡めるために、学校から文部科学省に移る必要を感じました。

Q 官庁訪問で、教員免許取得や教職課程の履修が役立ったことがありましたら教えてください！

K.S.さん：教職課程の履修は、官庁訪問の来訪者メモにおける政策提言で、科学教育の視点を入れるきっかけになりました。

A.N.さん：教職課程での学びや教育現場での実習等の経験は、現場で何が行われているのか、求められているのかを知り考える、貴重な機会になりました。こうした実体験に基づいて官庁訪問で自分の考え・思いを述べることができたのは良かったと思います。

H.S.さん：実体験に基づいた話をする中で、自分の考えに説得力を持たせることができたのが良かったです。「科学に興味がない生徒に、科学への興味を持たせるにはどうすればいいと思う？」といった教育に関する具体的な質問に対して、教育現場をイメージしながら答えることができたと思います。

Y.K.さん：教育と科学をつなげた視点は研究を実際に行うのではなく支援し広げていく立場である文部科学省職員にとって非常に重要で官庁訪問でも有効な視点になるとおもいます。

S.M.さん：官庁訪問では、理科教育・学校教育に興味を持ったきっかけの一つとして、エピソードに織り込みました。振り返ると、文科省職員として免許が必要ではないのですが、考え方の幅が広がったのではないかと考えています。

F.K.さん：定時制教員のため、官庁訪問では一志望者というよりも一教員として現場の意見を代表してぶつけてやろうという気構えで臨んでいました。面接の中では、逆質問のときに文科省の方々から見て学校の教員に何か言いたいことはありますかと質問をし、様々な方から率直な意見を頂いたことは、私にとっても、そしておそらく多くの教員にとっても、非常に意義のあるやり取りであったと感じています。私が教員であればこそ、率直に答えて頂いたのだと思いました。

01

02

03

04

05

06

07



最後に読者へのメッセージをお願いします！

K.S.さん：教職課程の履修は、自分の経験してきた教育を振り返り、将来の教育を考える良い機会になります。教育に関心があるなら履修してみると良いかも知れません。

H.S.さん：教職課程での学びは、教育に対する理解と思考を深め、経験に裏打ちされた意見を述べるができるという点で、役立つことがあると思います。一方で、なぜ教員ではなく行政官か、なぜ現場や地方自治体ではなく国なのか、という点は必ず聞かれると思うので、自分なりの答えを用意しておく必要があります。どんな仕事で、どんな立場で、何をしたいのか、検討した上で、頑張ってください！

A.N.さん：教職課程を履修して、「教育」への考え方が変わり、自分自身の視野が広がりました。そして、教育がもたらすことに限らず、未来について考えるきっかけにもなりました。今は漠然としか将来を考えられない人も、教育に少しでも興味があるのなら、きっかけの1つとして教職課程を履修するのも良いと思います。自分のやりたいことを見つけられるように、自問自答しながら頑張しましょう！

Y.K.さん：教育課程は単に教育を学ぶだけでなく、伝え方や聴衆の視点など広く社会人として必要なスキルを身につけられます。自分の専門としている内容をそうでない人に伝えるにはどうすればいいか、自分の受けた教育からどのように未来が見えてきたのか見えなかったものは何かなどを考える機会となると思います。

S.M.さん：教育に興味がある方でも、興味がない方でも、学校で過ごした経験・それ以外の経験の中で、当たり前だと思っていたことでも、より良く改善する方法はあるのか考えてみてください。その課題に対して、自分ならどのような形で社会に貢献できるのか、考えることが就活だと思えます。教職課程の授業は、私にとってきっかけの一つになりましたが、皆さんの自己実現できる場所の候補に文部科学省があれば幸いです。

F.K.さん：学校と文科省は役割を分担しているだけで、教育という目標は共通しているはずです。しかし進路を決定する段階で、教員になれば文科省に行く、あるいは文科省に行けば教員になると言っている人はあまり見たことがありません。相互の交流が物理的にも心的にも離れているところに学校現場と教育行政の距離の遠さという問題があります。教育に関心を持たれて文科省を志望しようと思っている方は、学校の教員になった後で文科省を志望するというキャリアも当然あり得るのだということをぜひ意識してみてください。

【コラム：政策の勉強方法】

①業務説明会に参加する

一番基本的かつ効果的な政策の勉強方法は、省庁の業務説明会に参加することです。業務説明会では、今トレンドの政策や、その省庁を志望する学生に知っていてほしい情報が凝縮して紹介されています！

②職員訪問に参加する

職員さんに直接政策についてのお話を伺うことができ、自分でインターネット等で調べるよりも深い知識を得ることができますし、自分の意見や考えのブラッシュアップにも繋がるととても貴重な機会です。

③審議会の資料を読む・審議会の傍聴する

興味のある政策分野を深掘りする際は、HP上にある審議会の資料を読んだり、YouTube等でライブ配信される審議会の傍聴したりすることもおすすです。

④関連書籍の読書

職員の方や内定者のおすすめの本を聞いてみましょう（本内定者の声にもおすすめの本リストを掲載しています！）。読書することで、政策に対する俯瞰的・批判的な視点を得ることができるように思います。

⑤ニュースや新聞を活用

政策知識を積み上げる基礎として、時事的な出来事のキャッチアップも欠かせません。個人的には新聞がおすすです。

⑥大学の講義の活用

興味のある政策分野に関連する講義を受講してみましょう。ゼミ等での学びはガクチカとして面接の際にアピールすることもできます！

01

02

03

04

05

06

07

地方大学出身者との対談



Q 省庁の情報収集の仕方はどのように行いましたか？

S.Y.さん：省庁志望の人がほとんどいないような大学だったので、人には頼れず、すべてインターネットから。コロナ禍でオンライン隆盛期だったので、セミナーなどはたくさん聞けて良かった。

T.J.さん：インターネットで行っていました。省庁や人事院の採用ページを定期的に見るようにして情報を集めていました。

S.A.さん：省庁の情報収集は、基本的に全て文部科学省公式から出される刊行物、HP、内定者ブック等を読み込むことで行いました。ちなみに東京での対面イベントは一切行っていません。

個人的な知り合いがいなくとも、個別相談会や座談会に行くことにより、必要な情報はちゃんと集まるので安心してほしいです！

M.H.さん：コロナ禍ということもあり内閣人事局が各省庁の説明会をオンラインで行っていたので、その説明会に全て参加して情報を集めた。研究室から説明会に参加できたのは地方勢として有難かった。

Y.S.さん：各省庁が開催している説明会や政策ワークショップ等に参加して情報収集していました！省庁の採用ページに直接アクセスして、説明会情報をこまめにチェックしていました！

N.S.さん：公務研究セミナーに出て興味のある省庁の説明を聞いていた。官公庁志望のきっかけにもなったし、一番タメになったと思う。説明会に出なくてもパンフレットだけ集めたりもした。

K.H.さん：省庁の説明会に参加して、情報を集めました。
大学の先輩に話を聞くこともしていました。

F.K.さん：文科省の公式ホームページと、オンラインの説明会

H.M.さん：基本的には人事院と各省庁のホームページにある刊行物やオンライン説明会や相談会から収集していました。(特に官庁訪問対策として内定者ブックと白書、パンフレット等を読み込んでました。)
その他には大学生協講座を受講している友人から省庁ごとのセミナー等の情報を提供してもらっていました。

また、地域ごとに対面で行っていた人事院主催のイベントにも参加していました。

内定者の出身大学

内定者プロフィール(6章)を見てもらえばわかるが、内定者の出身大学は様々で、35名を分類すると、以下の通りとなる。

東京大学	12人
京都大学	4人
慶応義塾大学	4人
早稲田大学	2人
北海道大学	2人
大阪大学	2人
同志社大学	2人
東京工業大学	2人
東北大学、九州大学、明治大学、中央大学、横浜国立大学	各1人

01

02

03

04

05

06

07



Q 試験準備、官庁訪問の準備にあたって、地方が不利に感じたところがありますか？

S.Y.さん：官庁訪問等での出費と移動時間。ハイブリッド型の説明会で、現地にいけないという罪悪感。

T.J.さん：対面の場合は東京開催が多いので、もどかしさは感じていましたが、特に不利だとは思いませんでした。

Y.S.さん：試験準備に関しては不利に感じたところはないです！

官庁訪問の準備に関しては、対面での職員訪問や内定者座談会等の機会が限られていたのが不利に感じたところです。

直接、職員や内定者の雰囲気を感じられなかったり、他の志望者との横のつながりが作りにくかったです。

N.S.さん：特になかったかなあと思う。あ、でもY.S.さんの言う通り、横のつながりは確かに作りにくい。

S.A.さん：官庁訪問準備に関しては、官庁訪問の出費が負担でしたね…10万以上は軽かったです。

試験準備に関しては、試験会場が限られているために、ホテルに前日入りする人もいました。

両方、家から離れなければならないので、精神面や金銭面、時間の面で少し不利に感じました。

あと、横のつながり作りのために、SNSを通じて総合職志望の友人を作り、その子と一週間に一回は電話で話し、進捗確認や同じ問題を解いていました！SNSが不安だったらインターンや説明会・受験者コミュニティで友人を作るといいかもしれません！

K.H.さん：地方が不利だと感じたのは金銭面での負担が大きかったことと、長期間帰れないので研究室との調整が大変だったことです。

慣れない環境にすることで精神的な負担もありました。

S.A.さん：言われてみれば、土地勘がないので、どこにホテルを借りればいいのか分かりませんでした！！笑

→3章 官庁訪問体験記の【体験談⑩：官庁訪問中の宿泊先の選び方】をぜひご参照ください！（p.24）

M.H.さん：金銭面、精神面での負担が大きい。官庁訪問が2週間も東京で行われることがかなりキツかった。2週間も研究室を離れることを伝えると教授から小言を言われた。

自分は東京に実家があったから宿泊費は浮いたけど、普通なら10万近くかかると聞いた。

F.K.さん：官庁訪問の費用がアホみたいにかかる。交通費、食費、宿代…☹それと、インターンも確か2週間ほど東京に行くことになるため、私は自然とインターンに参加する選択肢が無かった。北海道は対面の説明会も全然無くて、自分からお金を払って東京に行かない限り、職員とはほぼ知り合えない。（私が情弱だった説があります）

H.M.さん：対面の説明会や相談会にはあまり参加できないこともあり、職員さんと顔見知りになれるチャンスは首都圏にいる人の方が多い気がします。

他には2次の人物試験(院卒)、官庁訪問、内定式と東京に出るタイミングが多くその都度お金が飛ぶため生活費の切り詰めが大変でした。（LCC命でした）

また、官庁訪問中に研究室に行けないため研究が完全に止まってしまうことは少し痛手でした。

唯一行った対面の説明会の時、豪雪で飛行機が欠航して焦りました。



01

02

03

04

05

06

07



Q 地方大学出身の強みはどこにあると思いますか？また、それを感じた場面があれば教えて下さい。

S.Y.さん：東京や関東圏とは異なるアイデンティティを少なくとも1つ持てることで、自動的にユニークさが出てくる場所。

T.J.さん：地方大学出身だからこそ感じた強みはありません。ですが、自分の心持ちとしては、「いろんなバックグラウンドを持った人がいた方が面白い化学反応が起こるだろうから、省庁も私みたいな人材が欲しいだろう」と言い聞かせてました。

S.A.さん：地方出身者ならではのアイデンティティや独自性、視点の違いが私も強みだと思います…
完全に上の2人と同じですが…笑笑

より具体的に言えば、「地方の教育格差」について、実体験を交えて話すと、とても評価が良かったです！

N.S.さん：往路の新幹線でテンションが上がる場所、気持ちが切り替わる場所

Y.S.さん：ないです。大阪生まれ大阪育ちの私は、教育について「地方」を感じることは少なく、地方の教育格差についてあまりピンと来ませんでした。

強いてあげるなら、説明会に行くだけでも旅行感があったことでしょうか。地方大学だから採用に有利だったとは思いません。

強みとまではいえませんが、新橋駅近くのホテルを予約すれば、文部科学省最寄りの虎ノ門駅まで1駅(1分)で着きます！毎日実家から1時間以上かけて官庁訪問にのぞむ人から羨ましがられました。

M.H.さん：内定した関西勢が8人とちょうど良く、飲み会とかが開きやすかったこと。
官庁訪問中に地方大学出身の強みを感じたことはありませんでした…

K.H.さん：特に無かったです。

F.K.さん：地方大出身者が少ないから、なんとなく希少価値があること。()

H.M.さん：面接開始時に大学や地方の話振ってくださることが多かったので緊張が和らいだことをよく覚えています。
自分の大学から試験を受ける人があまり多くなかったため、2次試験の対面の時に連帯感が生まれてた気がします。

確かに長距離移動時に気持ちの切り替えがスムーズにできることは強みになると思います。

【コラム：先輩の履歴書を見てみよう！①】

地方出身の内定者に、履歴書を見せてもらいました。①では、志望理由を公開します！

私は、「国民全体が自己実現できる社会」という理想に向け、学習障壁の除去や、学習環境の整備をするために貴省を志望しました。

私は地方の出身で、故郷を訪れるたびに感じるのが、都市と比べた「大学進学」の可能性の低さです。周囲の雰囲気や、学習意欲、予備校などの大学進学用施設、大学の数、所得格差といった多種の要因が絡まり、大学進学率は全国でも最低の水準にあります。また、その状態の中で大学に行かなかった人が、40代の頃に「リカレント教育」を受けました。そこから再就職し、自分の専門分野を活かして日本一の営業成績を手にしたとき、人の潜在能力の大きさに感動しました。そこで、この日本では、地域的要因や、当時の社会事情のためにそれぞれの潜在能力を十分に発揮できていない人がいるのではないかと問題意識を抱え、「学びの可能性」を増やすことの重要性を学びました。

よって、日本国内全体で遍く自らが望む環境・タイミングで個別最適な学習ができるように、システム面からこの国の多様な教育制度を支えたいと思います。

この志望理由ももちろん完璧ではないので「こんな雰囲気を書くんだな～」位のイメージを掴んで暖かい目で見いただければ幸いです。

ストーリー性と、次の政策提言への一貫性を重視して自分の原体験は省略しましたが、大体聞かれてちゃんと話せていました！
気になる②は次の次のページへ！！

01

02

03

04

05

06

07



Q 官庁訪問での苦労話があればお聞かせください

S.Y.さん：社会人なのもあってクール毎に職場に戻る（1日目に面接行って2日目3日目は帰京など）必要があった時もあり、出費が大変。

T.J.さん：ホテル代がかかる。そして、いつまでホテルを取るか迷った。ホテルでは1人なので、息抜きしたい時にも面接のことを考えてしまう。食生活が乱れる。

S.A.さん：2ヶ月分のバイト代が消えました！！

慣れないホテル暮らしや、官庁訪問で長時間緊張状態を強いられることもあってか、上手くりフレッシュとかはできませんでした。無印良品のカレーだけが味方…

第2クール3日目ほど悩んで泣いた日も、第3クール1日目で不採用を告げられた時ほど絶望した日もない気がします。それを全て自分の中で消化して数時間後には面接が待ち受けるという、ある意味の極限状態にあったような気がします…

（※第3クール2日目ほど人に感謝した日もないので、ご安心ください…！）

N.S.さん：官庁訪問中は交通費的に研究室に行けなかったので実験を進められないプレッシャーや准教授からのメールで胃が痛かった。（一方で毎クール京都に戻ってるパワフルな人もいたのでそっちの方が大変そう）

Y.S.さん：官庁訪問の出費ですね…ホテル代で約10万円、全て合わせると20万円近くかかりました。

ジム系さん：過度なプレッシャーと長時間の省庁滞在で、PFCバランスが崩れ、トレーニングで鍛え上げた大胸筋・三角筋・上腕二頭筋がみるみるしぼみ、官庁訪問期間で体重3kg落ちました。

Y.S.さん：官庁訪問では、交通費も宿泊費も支給されません。全部自費です。これを民間企業に就職した友達に話すと、大変驚かれました。最終面接のための交通費が支給される企業は多いみたいです。

K.H.さん：官庁訪問ではとにかく出費がすごかったです。

毎日外食だったので、日に日に体のコンディションが悪くなっていきました。

F.K.さん：周りの人が、対面の説明会とかイベントに複数回参加してて、職員とお互い面識があるという事実を知って辛かった。地方だなあと思った。（やっぱり私が情弱なだけかもしれない）

H.M.さん：もちろんお金は厳しかったのですがそれ以上に満員電車が久しぶりで辛かった記憶があります。（結局コンディション重視してグリーン車に乗ったためお金がまた飛んでいきました）

実家が関東にあるから頑張れば通える…くらいの人には、慣れない1,2クールの間だけでもホテルを取ることを強く勧めます。

最終合格するか微妙だったため変更可能な高い航空券を取らざるを得ませんでした。合格発表後、官庁訪問まで2日しかなかったため全てが慌ただしかったです。

M.H.さん：東京の実家から官庁訪問に行ったのだが、久しぶりに会う弟とついつい深夜まで話し込んでしまって毎日寝不足だった。



01

02

03

04

05

06

07

最後に、地方受験生にアドバイス、
応援メッセージをお願いします！

S.Y.さん：いろいろと不利ばかり背負うことになってますが、そのぶん職員さんがいろいろと労ってくれると思うので、うまくアピールすると良いと思います。

T.J.さん：コロナもあってオンラインでの説明会が増えたので、比較的やりやすくなっていると思います。あまり、気負わずに、頑張ってください！官庁訪問中は、面接に集中した方がいいと思うので、事前にアルバイトでお金を貯めたりしておくといいかもしれないです。

S.A.さん：地方受験生は正直、お金がかかったり、余計な精神的・時間的負担がかかります。しかし、その分、メリットもあります！！地方出身だからって、諦めや不可能の要因にはなりません！

地方受験生のコミュニティや、職場訪問での相談を通じて、不安をどんどん取り除き、自信をたっぷり持って行ってほしいな、と思います♪

N.A.さん：オンラインも一般化しているので、情報格差は確実になくなっていると思う。別に都内の受験生だけが共有してる不文律や暗黙のルールがあるわけではないので、自信を持って臨んでほしい。

Y.S.さん：東京に来た時は、知り合いと会うべき！！官庁訪問期間中に、大学の先輩にご飯に連れて行ってもらい、とても心強かったし息抜きにもなった。

バランスの良い食事と十分な睡眠は絶対に譲ってはいけません！自分の体が何よりも大事です！

周りと自分を見比べたり不安になることはたくさんあると思いますが、自信を持ち続けてください！！自分を採用しないとか文部科学省、国家の損失だぞと思うくらい強気でもいいと思います。

地方組の公務員就活は、東京組と比べてもまた民間就活と比べても不利に感じる人が多いと思います。ですが、それでも「世のため人のために働きたい」と頑張る皆さんは本当にかっこいいと思います。是非、困難な状況でも諦めずに最後まで努力する方々に、将来の日本を背負っていただきたいです。

ジム系さん：筋トレですね。

東京にはGOLD GYMがたくさんあるので、ビジター利用して官庁訪問期間中もトレーニングを継続すべきです。プロテインをキャリーバッグに詰めるのを忘れないようにしてください。

M.H.さん：来年文部科学省でお会い出来るのを楽しみにしています！



【コラム：先輩の履歴書を見てみよう！②】

地方出身の内定者に、履歴書を見せてもらいました。②では、政策提言を公開します！

「リカレント教育の障壁について」

現代日本においては、少子高齢化やITなどの先端技術の急速な発達により、生涯学習の推進が急務です。しかし、実際に今の社会人が大学などの研究機関において、働きながら学び直しをするというのは多くの困難が伴います。その大きな課題としては、大学または大学院における社会人用の入学条件およびカリキュラムの不整備があると考えています。よって解決策としては、日本全体でリカレント教育推進支援を行うことが政策の重要な方針となります。具体的にはモデルケースの設立に力を入れるべきです。単位認定の要件緩和や、社会人用大学共通テストの設置などを暫定的に行っていくことにより、企業および現社会人が望むリカレント教育制度と、大学のカリキュラム実態の橋渡しを果たすべきです。さらに、働きながら教育を受ける環境を整えるには、国公立の教育機関だけでなく、特に地方私立大学を重視し、教育機関の地方遍在性や多様性も確保すべきだと考えています。

これに対する質問としては、

- ・「なぜ」「どのように」「誰が」の質問
 - ・私大と国公立大の違いについて
 - ・カリキュラムポリシーや大学の自治について
 - ・政策導入による社会への影響予測について
 - ・実効性、必要性があるかについて
 - ・全国的な普及活動の方策について
 - ・政策提言の限界について（なぜ今できないのか、実現したとして取り残される人は誰か）
- といったような質問が投げられかけました！想定外の質問もあり非常に楽しかったです...！！

01

02

03

04

05

06

07

留学経験者との対談



Q 留学に行った時期・期間・国を教えてください！

T.J.さん：大学3年生の夏休みに2週間、イギリスに行きました。

S.Y.さん：1. 大学一年生夏休み、1ヶ月、イギリス

2. 大学二年生夏休み、約3週間、韓国

3. 大学三年生冬、1セメスター（約半年）、イギリス

K.Y.さん：高校3年夏、1年、カナダ

Q 文部科学省の志望にどのような影響を与えましたか？

S.Y.さん：特に影響はありませんでした。留学の有無で合否は決まらないと思います。ただ、国家公務員試験での加点制度があったり、民間就職の際にもプラスになったりするので英語の勉強はしていた方がいいと思います。

K.Y.さん：カナダでは英語を母国語としない子どものためのサポートが手厚かった。日本でもそのような制度を広めたいと思った。

T.J.さん：特にありませんでした。あえて上げるなら、海外も視野に入れられる仕事がしたいと思いました。

Q 海外に行った理由と経験したことを教えてください！

S.Y.さん：理由は二つあります。一つ目は、その大学で行われた発明が日本の高校の教科書に掲載されているほど有名であり、最先端の技術を学びたかったからです。二つ目は、世界大学ランキング上位大学において、授業や研究室の様子、学生の姿勢、留学生への対応など日本の大学とはどう異なるのか体験したかったからです。日本人留学生が珍しかったため、たくさんの現地学生が声をかけてくださり、いろいろな経験ができたのが楽しかったです。語学留学の方は、ビジネスコースに申し込んだため（自身の専門は生物です）、初めて街でのマーケティング調査を英語で行ったのがとても大変で印象に残っています。

K.Y.さん：理由は、将来、日本だけではなく海外でも仕事をしたかったから。留学を通して語学力を向上させ、海外の文化を知ることによって将来の糧になると思った。カナダの公立学校に留学したため、現地の文化を肌で感じ取ることができた。様々な人種の学生と一緒に学んでいる姿を見て、多様性の重要性を学んだ。

T.J.さん：理由は海外に行ってみたかったからです。自動車部品の日系企業でインターンシップをしました。英語で業務説明をしてもらいながら、破損原因調査を行ない、最終日にはプレゼン発表をしました。



01

02

03

04

05

06

07



Q 文部科学省を志望する上で、海外経験がある強みは？

S.Y.さん：幅広い経験があるのはプラスになると思います。文科省での官庁訪問や国家公務員試験の人事院面接でも留学経験が深掘りされたので、海外経験は非常にアピールになると思います。

K.Y.さん：英語力があると公務員試験で加点されるため、英語力はあるに越したことはない。

また、海外の学校に留学すると日本の制度との違いも自ずと見えてくる。それを面接の話題にもできるし、海外留学は文部科学省を志望する上で強みになると思う。

T.J.さん：海外でのインターンシップが自動車部品会社だったので、どんな分野でも面白さを感じられることへのアピールになった気がする。英語が使えることが強みというより、そこで得たことが大切だと思う。

Q 海外経験のある受験生へ一言

S.Y.さん：入省後にも留学や海外研修の機会があります。さらに文科省では、OECD（経済協力開発機構）やUNESCO（国連教育・科学・文化機関）といった国際機関での勤務、海外の日本大使館での勤務のチャンスもあります。学生の留学とは違って新しい経験を積めると思いますので、ご興味のある方はぜひ文科省を就職先の一つとしてアプライしてみてください。

T.J.さん：海外経験だけでなく、どんな経験もプラスになると思います。英語を話せることで勤めてからの業種の幅も広げられるので、その経験を活かしてどんなことに活かせるか、どんなことがしたいかに結びつけて考えてみるとワクワクすると思います。

K.Y.さん：海外留学は行って終わりではありません！留学を通して得たことを活かして新しいことに挑戦することに意味があると思います。皆さんの留学経験をこれからの文部科学行政に是非活かしてください！

【コラム：先輩の履歴書を見てみよう！③】

地方出身の内定者に、履歴書を見せてもらいました。③は、自己PR（長所、短所、特技、趣味等）を公開します！恐ろしいことに、執筆者は趣味・特技には面接で一切触れられませんでした…

長所は、好奇心をもって粘り強く使命に向き合うところです。模擬国連の活動で、全く自分の専門外の議題を話し合うことになった時も、積極的に下調べや準備を行い、自分に与えられた役割としての責任を果たしてきました。よって、好奇心の強さを活かして幅広い課題に取り組みたいと思っています。

短所は、計画や準備をして物事に取り組むことが多いため、瞬発的な対応力が不足している点です。例えば、予想していない出来事が起こった時に、現状把握からの課題の検討や優先順位の決定などの過程で、様々な可能性を考えすぎてしまい、立ち止まる時間が長くなる傾向にあります。よって、不測の事態に対応できるように知識や経験を積極的に積んでいこうと思います。

特技はどこでも熟睡できることです。

趣味は読書、和歌・俳句や漢字学習、友人とのカフェ巡りです。

以上で、「先輩の履歴書を見てみよう！」シリーズは終わりです。来年度以降はまた設問が変わるかもしれませんし、そもそも丸写しもできない類のものです。ただ、私自身内定した先輩がどんなことを面接カードに書いていたのか、非常に知りたいものの、結局知ることができないまま官庁訪問へと挑みました。この恥を忍んだ履歴書公開が悩める皆様の一助となれば幸いです。

01

02

03

04

05

06

07



博士号取得者との対談

Q 大学院での研究分野・テーマを教えてください！

S.Y.さん：神経科学、心理学。博論テーマは「動物脳の左右半球間の機能差と半球間相互作用」について。最終年度はこれに加えて、「人間らしさの本質」や「共同注意、共同コミットメントを介したコミュニケーション方策」に迫る理論構築も。

K.S.さん：分野としては植物生態学です。「火山性土壌に育つ植物の栄養獲得」に関する研究をしています。

Y.Y.さん：進化生物学、生物工学。産業利用を見据えてタンパク質の主鎖環状化による安定性向上を目指しています。

S.Y.さん：生化学、分子生物学。植物のウイルス防御機構を試験管内で再現し、詳細な分子機構の解明を行いました。

Y.K.さん：物理学。神経細胞の活動や交通量、火災延焼のメカニズムなど様々な分野で応用が期待される非平衡統計力学の理論的基礎研究を低次元の模型にモデリングして研究を行っています。



Q 博士課程を経て、なぜ文部科学省を志望？

S.Y.さん：自己のために研究を実施するよりも他者のために貢献することの方が好きだと悟ったため。また、本当に明らかにしたい研究ならば、自分一人で行うよりも政策の形で広く研究推進・研究支援を行う方が、より効果的なのではないかと思い至ったため。

K.S.さん：特別研究員として基礎研究をしてきた経験から、博士学生や基礎研究を支えているのは文部科学省だと身をもって知ることができました。これまでの経験を活かしながら、文部科学省の職員として基礎研究の発展に寄与したいと思うようになりました。

Y.Y.さん：自分で課題を見つけて研究を進めるよりも、他人の研究を聞く方が楽しかったため、国内の研究を幅広く所管する文科省を志望しました。いろんな分野の研究を知って、国として力を入れる分野の設定や異分野融合に取り組みたいと思っています。

S.Y.さん：私は、サイエンスキャンプ（高校）、グローバル人材育成プログラム（大学）、大学院リーディングプログラム（修士課程～博士課程）、日本学術振興会特別研究員（博士課程）と文部科学省の政策により幅広い経験を積むことができました。今後は、日本の未来を司る子供達だけでなく、成人や高齢になっても多岐にわたり学べ、自己実現できる機会を国民に提供したく志望しました。

Y.K.さん：自分で研究をしていって細分化していきながら成果を出すよりも幅広く科学や教育、文化を学びつつその進展を支えることの方が魅力的であり、より多くの人の未来に貢献できるのではないかと考えた。

01

02

03

04

05

06

07



Q 博士課程出身の強みは何だと思いますか？

S.Y.さん：個人としては、アカデミアやサイエンスの世界で通用するための最低限の慣習や作法を身に付けたところが大きいかもしれない。研究計画から論文の読み方・書き方、論文投稿の際のカバーレターなど、ある程度型が決まっているものをそれを当然のようにこなせる能力は、これからの時代のEBPM的な政策立案に最重要。また、アカデミアでは一般社会ではあまり接することのない価値観や文化に接する機会が多いため、それらが自分の考えの糧となり、様々な視点を網羅した上での全体包括的な政策立案や当事者とのコミュニケーションに繋がっていきそう。

K.S.さん：博士課程で学生をしてきた経験は、理系大学院生や若手研究者に寄り添った政策立案に役に立つのではないかと思います。そのようなお仕事の機会があれば頑張りたいです。

Y.Y.さん：研究のきつさや研究者のすごさを身をもって分かっています。研究の進め方も経験しているので、研究者をリスペクトして研究を進めやすい仕組み作りができればいいなと思っています。

S.Y.さん：研究テーマを考察するところから論文投稿するまで全て自分で行うため、自ら課題を発見する力・データ分析力・論理的思考力が身につきました。また、国内外の学会で研究発表をし、他分野の人との交流を積極的に行い自分の研究に取り入れるため、コミュニケーション力・人に分かりやすく伝える力・データ活用力が身につきました。博士課程は修士からたった三年間ですが、このように数々の経験と成長ができます。しかし、日本企業は博士号取得人材の採用にまだまだ積極的ではないため、博士号取得者が海外のように活躍ができていない現実もあります。これからは海外のように博士号取得が当たり前の世の中にして、多くの人に経験と成長の機会を提供できるよう日本の現行システムの改革を行いたいと思っています。

Y.K.さん：研究テーマの設定や問題解決への取り組みなどは社会に出ても通用するスキルを身につけられているかなと思います。また、研究者の考え方や研究室の現状を近くでみてきたからこそ寄り添った政策立案が出来ると思います。

Q 不安はありましたか？
あれば具体的に教えてください。

S.Y.さん：院進前からガチガチに計画的に行動していたため、課程修了時までそこまでの不安はなかった。ただし、計画通りに学振DCを取ったり論文を出版したり博士号を取ったりできていなければ、不安のボルテージは人生最大級になっていただろうと思う。

K.S.さん：今まで研究を頑張ってきたので、研究者以外の職業に就けるのか不安でした。しかし、就活をしてみて、現在は博士学生の就職先が多様化してきていること、国家公務員は博士人材の雇用を推進していることを知り、不安が減りました。

Y.Y.さん：官庁訪問の時期が遅く、その時点まで内定がなかったので落ちたらどうしようという不安はありました。入省後はこれまでの研究生活とは全く違う日々を送ることになるので、どうなるのか不安があります。

S.Y.さん：私の周りは留学生が多く、博士課程まで進むのは当たり前であったため、博士号取得に不安はありませんでした。しかし、留学生は博士号取得後に自国や日本での仕事がすぐに決まっている中、日本人博士号取得者の就職は難航していることを知り、自分も就職できるのか不安でした。

Y.K.さん：博士課程に進むこと自体は周りとは違う選択をするという意味で覚悟みたいなものはありましたが不安はありませんでした。進学後は就職などについては不安に思いましたがコロナもあって家にいる機会を利用して国家公務員の仕事を知って、自分のやりたいこととマッチしてるなど感じてからは不安はなくなりました。

01

02

03

04

05

06

07



博士課程の後輩へ一言！

S.Y.さん：文部科学省技術系は、日本で唯一の分野の博士号でもその意義を高く評価してくれる職かもしれません。理学、基礎心理、文学、哲学など、現実的に職がほとんど無くお困りの方は、気軽に国家公務員試験と官庁訪問に応募してみると良いと思います。

K.S.さん：博士学生の期間でしか出来ないことをたくさん頑張ってみてください！その経験が将来に繋がると思います。

Y.Y.さん：文科省に限らず国家公務員の技術系は博士人材を評価してくれるところだと思います。就職先の候補として考えているなら早めに試験を受けておくことをおすすめします。

S.Y.さん：学生の期間でしかできない経験や勉強をたくさんしてください。就職するとプライベートの時間を持てなくなるため後悔のないように～！

Y.K.さん：博士の期間は修士ともポストクとも違って学生の身分で自由な研究活動が出来る期間だと思います。学生らしく楽しむ部分も研究者として一生懸命頑張る部分も両方楽しんでください。



【コラム：先輩のメールを見てみよう！】

文部科学省の先輩のいない中、三年生の冬に一番困ったのが、「メールはこんな感じでいいのか…？」という点です。

参考に、職場訪問に申し込んだときの内定者のメールを公開します！未だに、「これでいいのか…？」と思いますが、これでも受け付けていただいたので、良かったんだと思います！

部署
〇〇様

突然のご連絡失礼いたします。

〇〇大学〇〇学部〇〇学科 3年生の〇と申します。

私は今年の4月の法律区分を受験し、2023年に卒業する予定でございます。

貴省の職場訪問に参加させていただきたくご連絡を差し上げました。HPに記載されていた必要事項を記載いたしますので、ご査収ください。

- (1) 名前・ふりがな
- (2) 連絡先（メールアドレス、電話番号）
- (3) 所属（大学名・学部等）
- (4) 受験予定の試験区分
- (5) 対応可能な曜日・時間帯

取り急ぎ、2月分をお伝えします。

(6) その他希望（関心のある政策・内容など）
主に教育分野に興味があります。日本国民の潜在能力の最大化を理想とし、リカレント教育の推進、私大改革、子どもの心の問題、いじめ問題、産官学連携、大学の国際競争力の強化に関心を寄せています。教育分野以外では文化財および伝統芸能の保護に興味があります。

- (7) 訪問形式

宜しくお願い申し上げます。

署名

→ちなみに、この内容で大学改革、文化財保護の業務につかれています方をそれぞれご紹介くださいました！職場訪問は本当に勉強になるので、可能であれば絶対申し込みをした方がいいかと…！

01

02

03

04

05

06

07

内定者からのメッセージ

07
インタビュー

就活も大学生活も
悔いのない選択ができる
よう応援しています！

内定者全員から、最後に読者の皆様にメッセージをお送りします！

自分の「軸」を大切に
して、根気強く、頑張
ってください！

自分に自信を持って、
急がば回れの精神で頑
張って下さい！

本当にやりたいことを見定め、納得の
いく就活にしてください！

周りと比較しすぎず、
自分を信じて頑張っ
てください！

就活楽しんじゃって
ください！！

学生生活も楽しみつつ、
後悔のないよう頑張っ
てください！

自分の軸を徹底的に深め、
後悔のない就活を！！

独学で試験勉強をして
いる人も自分を信じて
頑張ってください。

就活は最後は決断で
す。決めた道を正解に
しましょう！

飛び込まないとわから
ないことがあります。
後悔のない選択を。

就活生の皆様が、ベストな選択を
できることを応援しています！

心身の健康に気をつ
けて、納得のいく進路選
択ができますように。

初心を忘れず、自分の信念
を大切にしてください！

沢山話を聞いて
沢山悩みましょ
う。応援してい
ます！！

夢を持ちましょう。
あなただけの夢を、
聞かせてください。

国家公務員の就活は終
わりが遅いですが最後
まで頑張ってください

面接頑張ったあとの
ビールのうまさを
信じてください。

最後まで頑張っ
て下さい！！

どんな教育論も制度の
裏付けがなければ意味
がない

適度に息抜きしつつ頑
張ってください！

このパンフを見てる時
点で偉いです！自信を
持って頑張って！

私は一次試験の朝吐き
そうくらい緊張しま
した、大丈夫です。

辛い時こそ楽しんだ
もん勝ち！応援して
います！

身につけた経験や知識
は自分だけのもので
す！ふぁいと！！

文科省に興味がある
方は、ぜひ直接訪問
してみてください。

後悔のない選択ができる
ことを願っています。応
援しています。

積み上げてきたことが
武器になる！！

終わったら沢山遊べます！

使えるものは全部使うの精神で
取り組んでみてください！

自分のやりたいことを
明確にしながら、頑張
りましょう！

体調管理には、十分
気を付けてください
ね…！

自分自身で納得した意思
決定をしてください！

文科省の方々はと
っても懐が深い。自分の
思いをぶつけよう！

皆さんの新しい一歩を
応援しております☆



『令和4年度版 文部科学省総合職内定者の声』を最後までご覧いただきありがとうございます。本冊子では、内定者の「声」が皆さんにより伝わるよう、文体はあえて統一せず掲載いたしました。

内定者の人柄や想いを感じ取っていただき、文部科学省に興味を持っていたいただければ編集チームとしてこれ以上の喜びはありません。
次は、皆様と直接お会いできることを楽しみにしております。

『令和4年度版 文部科学省総合職内定者の声』
編集チームメンバー一同

発行日：2023年3月初版発行
発行者：令和4年度文部科学省総合職内定者一同
e-mail：mext2023@gmail.com
2023年4月以降は連絡が遅くなる可能性があります

※販売・無断転載禁止※

本冊子は内定者自身の体験を基にして作成したもので、
就職活動における文部科学省からの公式見解ではありません。
掲載した内容は2022年度時点のもので、正確を期しておりますが、
誤りがあり読者の方が不利益を被った場合でも、
その不利益に関してその一切の責任を負いません。

